

山梨県韋崎市発掘調査報告書

山梨県韋崎市

Okidono SITE III

隱岐殿遺跡 III

—中田町中条地区畠地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

山梨県中北農務事務所
韋崎市教育委員会
財団法人山梨文化財研究所

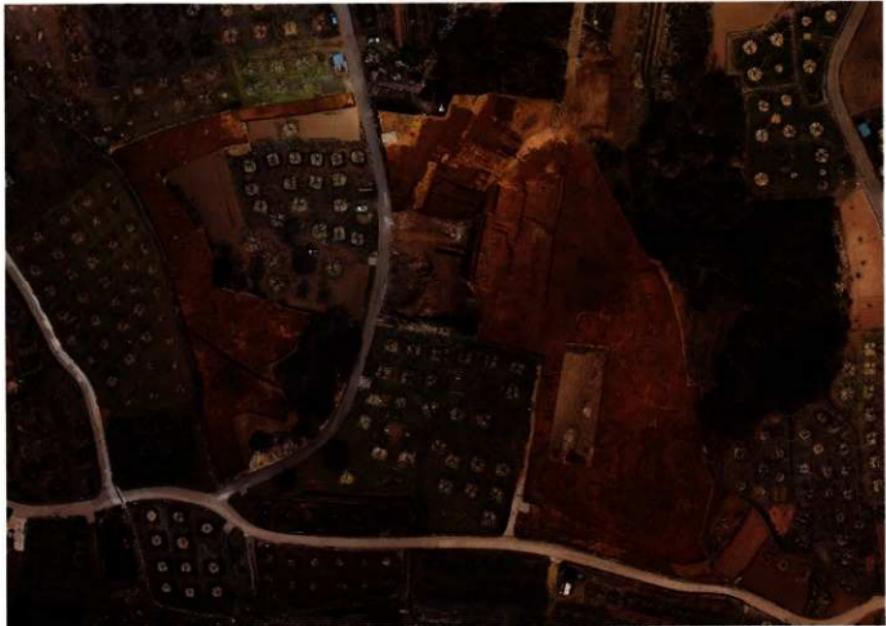
山梨県韮崎市

Okidono SITE III
隱岐殿遺跡 III

—中田町中条地区畠地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2011

山梨県中北農務事務所
韮崎市教育委員会
財団法人山梨文化財研究所



1. 隠岐殿遺跡航空写真



2. B区航空写真

例　　言

1. 本書は、山梨県韮崎市中田町中条地内に所在する、隱岐殿遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、畠地帯総合整備事業に伴う本調査であり、山梨県中北農務事務所の委託を受けた財団法人山梨文化財研究所が、発掘調査および整理作業にあたった。
事業内容は、国宝重要文化財等保存整備費補助事業及び山梨県文化財保存事業費補助事業の対象である畠地の整備事業と県直轄事業である農業用道路の新設工事があり、本書は農業用道路新設分の調査報告を掲載しており、畠地整備事業分の調査結果は、「隱岐殿遺跡Ⅱ」として、別に報告する。
3. 本書に掲載部分の調査経費は、山梨県中北農務事務所が負担した。
4. 発掘調査は、平成21年8月26日より10月13日まで実施し、整理作業は、平成21・22年度に実施した。
5. 本書の執筆・編集は、宮澤公雄が行った。
6. 本書に掲載の遺構写真は宮澤が、遺物写真は中川美治が撮影した。
7. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務について、以下の機関に委託ならびに協力を得た。

基準点・航空測量	テクノプランニング株式会社
石器実測	株式会社アルカ
鉄器保存処理	財団法人山梨文化財研究所
陶磁器類鑑定	藤澤良祐（愛知学院大学）
	堀内秀樹（東京大学大学院人文社会系研究科埋蔵文化財調査室）
石材鑑定	河西学（財団法人山梨文化財研究所）
8. 本書に関わる記録図面・写真・出土遺物等は、韮崎市教育委員会が保管している。
9. 本遺跡の発掘調査および整理作業にあたっては、以下の諸機関・各位から多大なるご指導・ご協力を賜った。ここに記して深く感謝の意を表する次第である。
韮崎市教育委員会、山梨県教育委員会学術文化財課、JAL梨北新府共撰所
稻垣自由、間間俊明、末木健、堤充紀、中山誠二、藤澤良祐、保坂和博、堀内秀樹、山下孝司
10. 参考文献は、執筆者順に第4章末にまとめて掲載した。

凡　例

1. 遺跡全体におけるX・Y座標は、世界測地系平面直角座標第VII系のX = -28,760.000、Y = -6,530.000（北緯35度44分15秒、東経138度25分51秒）を基点（X = 0、Y = 0）とした座標値である。なお、各遺構平面図中に示す方位は、すべて座標北を示している。

なお、真北方向角は0度2分25秒となる。

2. 遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として以下の通りである。

遺構

- 竪穴住居 — 1/30、1/60
- 溝 — 1/30、1/50、1/60、1/100
- 性格不明遺構 — 1/40
- 土坑 — 1/40
- ピット — 1/40

遺物

- 土器 — 2/3、1/3、1/4、1/6
- 石・金属製品 — 1/1、1/2

3. 遺構図版中で使用したスクリーントーンの凡例は以下の通りである。

■ 石 □ 烧土

4. 遺構図版中の遺物分布図のマークは以下の通りである。ただし、マークの向きは平面図については上向き、垂直分布図は垂直方向を基準としている。

- ▲縄文土器 ●弥生土器・土師器 ◆石器・石製品
- 陶磁器 ■金属製品

5. 遺物図版中で使用したスクリーントーンの凡例は、以下の通りである。

■ 赤彩土器

6. 遺構同一図版中の標高は、原則として統一しているが、一部異なるものもあり明記してある。

7. 出土遺物分布図中の出土遺物実測図は、任意の縮尺であり統一していない。また、接合関係を表現した線のうち、実線は接合関係にあるもの、破線は同一個体と判断されるが直接接合しないものを表す。

8. 遺構図版中および遺物観察表中の色調名は、農林水産省技術会議事務所監修 1990『新版 標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄）によっている。

9. 本書で用いた地図は、姫崎市発行の姫崎市管内図（1:10,000 および 1:2,500）である。

目 次

例 言

凡 例

第1章 序 説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第3節 調査の方法	5
第4節 遺跡概要	5
第5節 基本層序	6
第2章 遺跡の立地と環境	7
第1節 遺跡の地理的位置	7
第2節 遺跡の歴史的環境	7
第3章 遺構と遺物	11
第1節 堅穴住居跡	11
第2節 溝 跡	13
第3節 性格不明遺構	16
第4節 土坑・ピット	16
第4章 まとめ	21
参考文献	21
おわりに	23

表 目 次

第1表 土坑一覧表	17	第4表 出土遺物観察表 (土製品)	20
第2表 ピット一覧表	18	第5表 出土遺物観察表 (金属製品)	20
第3表 出土遺物観察表 (土器)	19	第6表 出土遺物観察表 (石器)	20

図版目次

第1図 隠岐殿遺跡の位置	2	第18図 溝(4)	36
第2図 調査区配置図	3	第19図 溝(5)	37
第3図 B区全体図	4	第20図 性格不明構造・土坑・ピット(1)	38
第4図 遺跡基本土層	6	第21図 土坑・ピット(2)	39
第5図 遺跡の位置と周辺の遺跡	8	第22図 土坑・ピット(3)	40
第6図 1号住居	24	第23図 土坑・ピット(4)	41
第7図 2号住居(1)	25	第24図 土坑・ピット(5)	42
第8図 2号住居(2)	26	第25図 土坑・ピット(6)	43
第9図 3・4号住居	27	第26図 土坑・ピット(7)	44
第10図 5号住居(1)	28	第27図 土坑・ピット(8)	45
第11図 5号住居(2)	29	第28図 土坑・ピット(9)	46
第12図 6号住居	30	第29図 土坑・ピット(10)	47
第13図 7号住居(1)	31	第30図 土坑・ピット(11)	48
第14図 7号住居(2)	32	第31図 出土遺物(1)	49
第15図 溝(1)	33	第32図 出土遺物(2)	50
第16図 溝(2)	34	第33図 出土遺物(3)	51
第17図 溝(3)	35		

写真図版目次

卷頭 1	1 隠岐殿遺跡航空写真	4 2号住居 遺物出土状況(4)
	2 B区航空写真	5 3号住居
図版 1	1 表土剥ぎ(1)	6 4号住居
	2 表土剥ぎ(2)	7 4号住居 遺物出土状況
	3 1号住居	8 5号住居
	4 1号住居 炉	図版 3 1 6号住居
	5 1号住居 遺物出土状況(1)	2 6号住居 炉
	6 1号住居 遺物出土状況(2)	3 6号住居 遺物出土状況(1)
	7 1号住居 遺物出土状況(3)	4 6号住居 遺物出土状況(2)
	8 2号住居	5 7号住居
図版 2	1 2号住居 遺物出土状況(1)	6 7号住居 炉
	2 2号住居 遺物出土状況(2)	7 7号住居 遺物出土状況(1)
	3 2号住居 遺物出土状況(3)	8 7号住居 遺物出土状況(2)

- 図版4 1 1号土坑
2 2号土坑
3 6号土坑
4 6号土坑 遺物出土状況
5 7号土坑
6 8号土坑
7 12号土坑
8 13号土坑

- 図版5 1 14号土坑
2 14号土坑 遺物出土状況
3 1号溝
4 2号溝
5 3・4号溝
6 7号溝
7 7号溝内ピット
8 調査風景

第1章 序 説

第1節 調査に至る経緯

遺跡の所在する韮崎市中田町は、塙川によって形成された平坦地と台地とからなる。平坦地は水出地帯となっているが、近年急速な宅地化が進行している。一方、八ヶ岳泥流と呼ばれる火碎流が形成した台地は、七里岩台地と呼ばれしており、宅地化がそれほど進行しておらず広大な畠地として利用されており、「新府の桃」として広く知られる果樹栽培ならびに根菜類の栽培が盛んに行われている。

山梨県では、農業の振興を図る目的で、畠地帯総合整備事業として畠地の集約、耕作放棄地の解消ならびに農業用道路の整備を行う計画を立案した。

この計画予定地内は周知の埋蔵文化財包蔵地である隠岐殿遺跡内にあるため、韮崎市教育委員会では2008年8月に開発予定地内の試掘調査を実施した。試掘調査の結果、古墳時代前期の堅穴住居跡と思われる遺構や遺物などが確認されたため、発掘調査が必要であると判断した。

調査対象面積も広く、韮崎市教育委員会単独では設定された調査期間内に調査を完了することが困難であるとの判断から、2008年11月に韮崎市教育委員会および事業主体である山梨県中北農務事務所より財団法人山梨文化財研究所に対し、隠岐殿遺跡の発掘調査の依頼があり三者で協議した結果、協定ならびに委託契約を結び、韮崎市教育委員会および財団法人山梨文化財研究所で調査区を分割し、発掘調査および整理作業にあたることとした。

埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を山梨県中北農務事務所、韮崎市教育委員会、財団法人山梨文化財研究所の間において締結し、山梨県中北農務事務所、財団法人山梨文化財研究所の間において発掘調査に関する委託契約を締結し事業にあつた。

調査体制

調査主体 財団法人山梨文化財研究所

調査担当者 宮澤公雄（財団法人山梨文化財研究所）

調査補助員 中山千恵、望月秀和（財団法人山梨文化財研究所）

発掘調査参加者 綱干祐馬、伊井實、河西町男、神田久美子、清水千三、清水恵、菅沼芳治、高橋主税、武井美智子、田中健二、筒井聰、東條幹雄、中川美治、中川博子、中澤久雄、永沢淳子、長沢晴雄、波木井祥和、萩原忠、深澤友子、福井光幸、保坂清文、宮川美季

整理作業参加者 伊藤美香、大村明子、角屋さえ子、鶴原ゆかり、梶原薰、神田久美子、小林典子、

齊藤ひろみ、崎田貴子、佐野真雪、須田泰美、武井美知子、田中真紀美、中川博子、

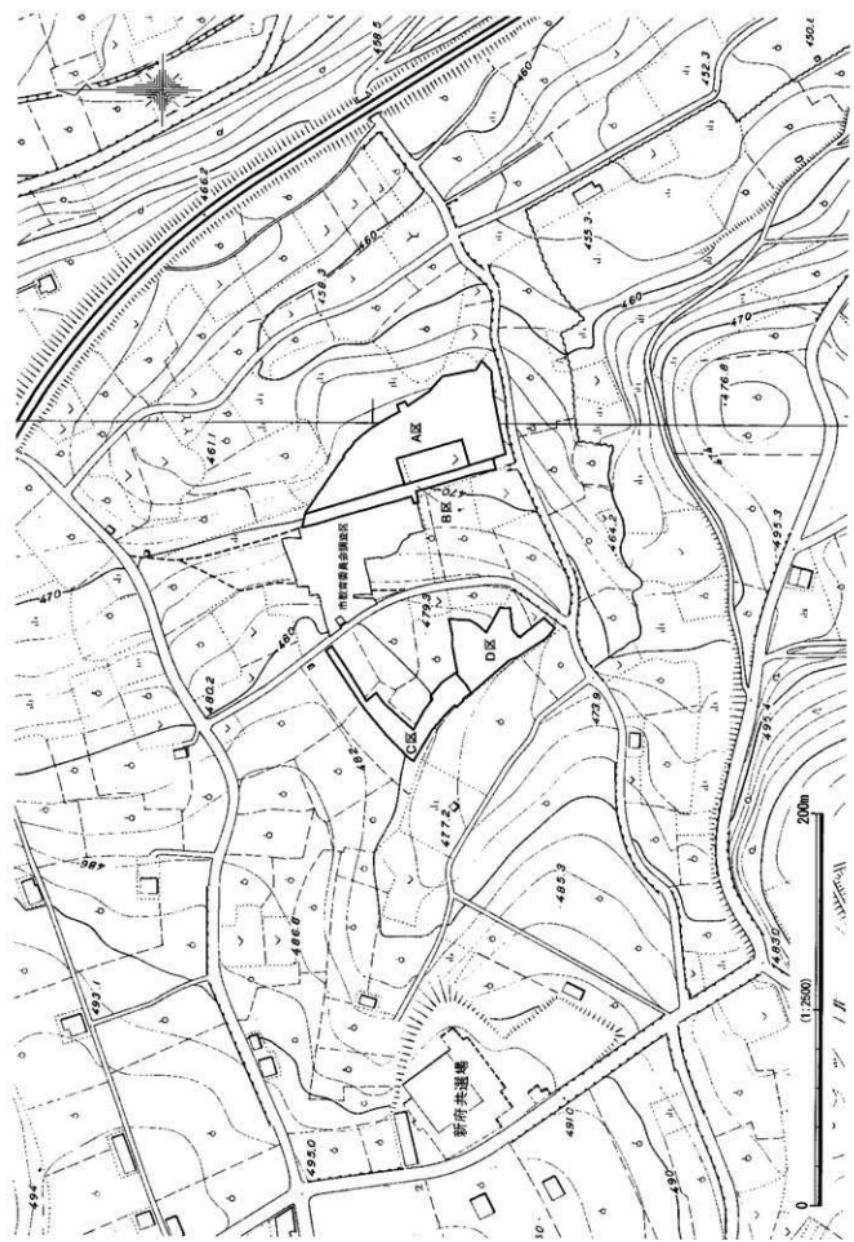
中川美治、永沢淳子、永田恵、原野ゆかり、林紀子、平賀早苗、藤井多恵子、渡辺美伸

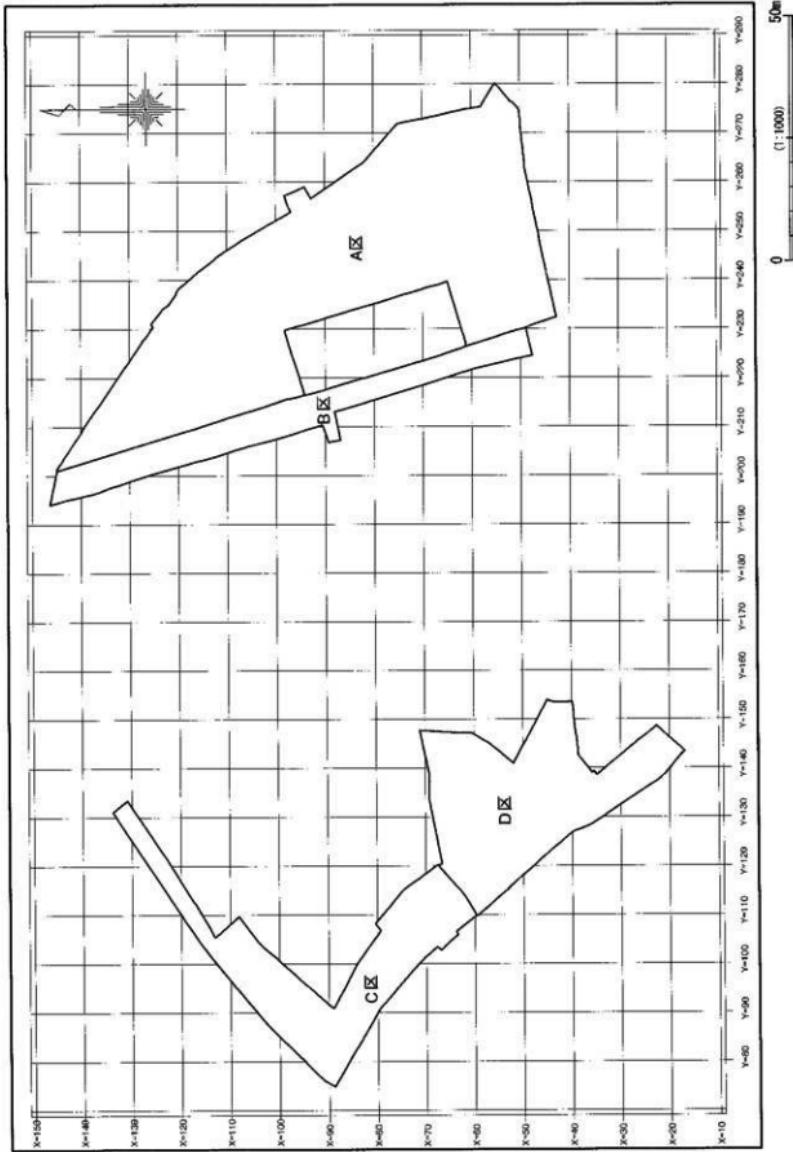
事務局 横田杏子、柳本千恵子

第2節 調査経過

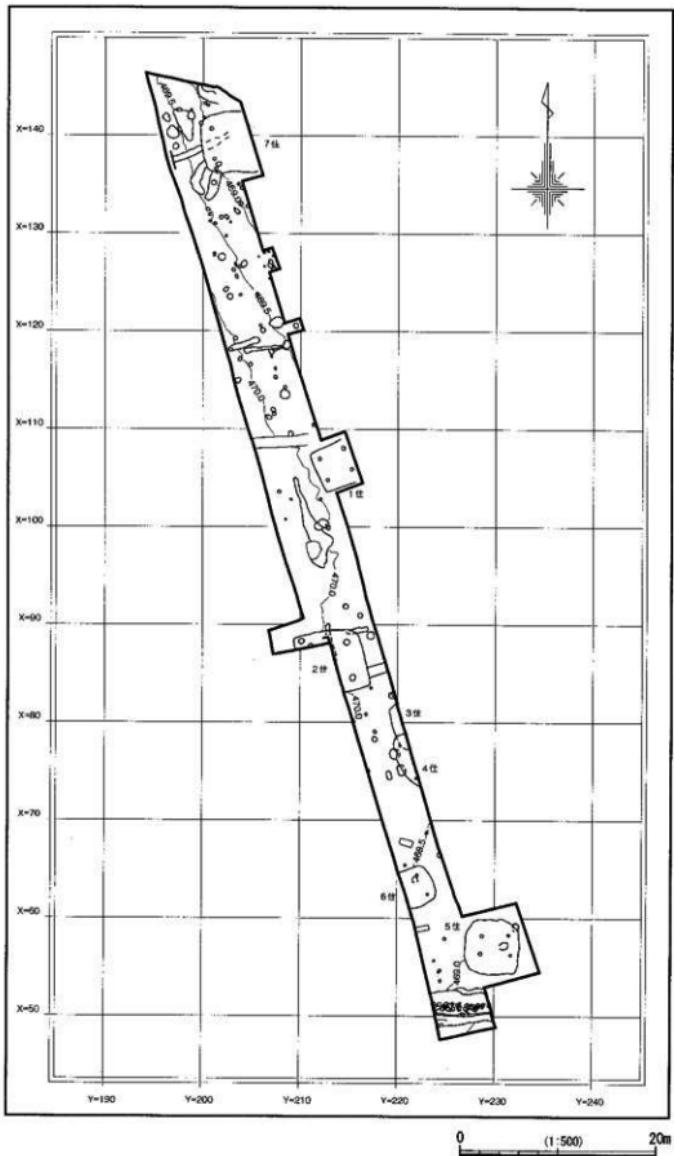
- 2009年 8月26日 調査区北側表土剥ぎ
9月1日 遺構確認作業
9月3日 遺構調査開始
9月8日 1号住居完掘
9月17日 上層遺構写真測量
9月18日 3・4号住居調査

第1図 沖縄島跡の位置





第2図 調査区配置図



第3図 B区全体図

- 9月24日 調査区南側表土剥ぎ
 9月25日 5号住居（A区1号住居）調査
 9月26日 7号溝（A区1号溝）調査
 9月28日 調査区南側写真測量
 9月29日 2号住居完掘
 10月10日 7号住居完掘
 10月11日 写真測量、機材撤収
 10月12日 埋め戻し
 10月13日 現地事務所撤去
 10月14日 現地作業終了確認

第3節 調査の方法

事業対象地内のうち、本調査区は農業用道路敷設用地にあたるため、試掘調査によって遺構、遺物が確認された範囲を発掘調査の対象範囲とした。

発掘調査予定地は、台地上の流れ山と谷に向かう緩やかな斜面上からなっており、緩斜面上の北側を韮崎市教育委員会が調査を行い、緩斜面上の南側ならびに台地上を財団法人山梨文化財研究所が担当して調査にあたることにした。

財団法人山梨文化財研究所が担当した地区については、便宜上、緩斜面上の南東地区をA区、同じく緩斜面上の事業用地中央を南北に走る農業用道路予定地をB区、台地上の北側をC区、南側をD区として発掘調査にあたり、ここに報告する調査区はB区にあたる。

発掘調査の方法については、先行調査していたA・C・D区に準じたので、詳細は『隱岐殿遺跡II』を参照されたい。

重機による表土剥ぎ終了後、事業対象地内全体を被うように国土座標にあわせて南北方向をX軸、東西方向をY軸とするメッシュをかけ、南西隅を基点とした。先行調査で用いていた世界測地系座標 $X = -28,760.000\text{ m}$, $Y = -6,530.000\text{ m}$ を原点 ($X = 0$, $Y = 0$) とし、調査区内に5mメッシュの杭打ちを行った。

第4節 遺跡概要

本遺跡は、釜無川と塩川に挟まれた、通称「七星岩台地」と呼ばれる河岸段丘上に位置し、現在は果樹園や畠地が営まれている地域にある。

隱岐殿遺跡は、東西900m、南北400mの範囲とされており、埋蔵文化財包蔵地の多い市内においても、新府城跡、能見城などとともに最大規模を誇る遺跡である。

本遺跡は、これまで発掘調査が実施されたことはなく、市教育委員会の遺跡台帳には縄文時代から古代の遺跡として登録されているが、遺跡の内容は明らかではなかった。

発掘調査の結果、市教育委員会調査区では、中世の礎石立建物2棟、掘立柱建物1棟が検出され、輸入陶磁器をはじめ、茶入れ、天目茶碗、茶壺などの国産陶磁器などが多数出土している。建物の性格は明らかにできないが、出土した遺物から16世紀中頃のものとみられ、武田勝頼が天正9（1581）に築城した新府城との関連が注目されるところとなった。

財団法人山梨文化財研究所が担当した地区は、上位の流山地形上の平坦面から傾斜面、下位の緩斜面に分けることが出来、緩斜面上のA・B区、上位の流山上のC・D区の発掘調査を行った。

A区は、標高469mを中心とした東面緩斜面上に占地し、縄文時代中期2軒、弥生時代後期から古墳時代前期22軒の堅穴住居と古代および中世と考えられる堅穴状遺構3棟、中世の掘立柱建物2棟、幅3.5mほ

どもある大型の溝などが発見された。

本報告としたB区は、農業用道路新設用地で、A区の西側ならびに市教育委員会調査地点の東側に位置する。中世の建物群の東側、斜面下方に位置することから、中世段階の造成面が確認された。造成面は、黒褐色土を押し出し最大で30cmほどの堆積がみられた。造成面は平坦ではなく地形に沿った堆積をみせ、B区東側のA区との調査区境あたりでみられなくなる。造成面の上層からは、中世以降と思われる土坑、溝が、下層からは、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居6軒、土坑などが発見された。

C区は、標高481mの流山上および西面斜面上に立地し、縄文時代中期5軒、縄文時代後期2軒、古墳時代前期3軒、平安時代1軒の竪穴住居、縄文土器を多量に廃棄した性格不明遺構などが発見された。また、斜面上の堆積土中から縄文土器が多量に出土した。北側に広がる流山状地形平坦面に展開すると考えられる集落から廃棄されたものと考えられる。

D区は、C区の南側に位置し、標高479mを中心とした流山上から南面傾斜地上に広がり、古墳時代前期の竪穴住居3軒、幅2.3mほどの大型の溝などが発見され、大型の溝は、A区で発見された大型の溝の延長線上にあり、同一のものと判断された。

第5節 基本層序

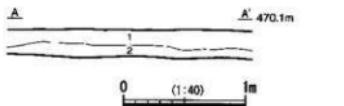
隠岐殷遺跡内における発掘調査対象地区は、上位の流山地形と下位の緩斜面にあたり、起伏が激しいため調査地点によって表土から遺構確認面の深さおよび土質には大きな差がある。

下位の緩斜面にあたるA・B区では、表土・耕作土が20~30cm堆積しており、その下層が暗褐色土の遺構確認面となる(第4図)。B区の北側の一部では、中世段階の屋敷構築に伴う造成面が続いており、2面にわたる調査を実施した。A区でも北側は、造成によって斜面下方に押し出された土砂が厚く堆積しており、遺構確認面まで1mほどもあった。

下位の斜面上における表土ならびに地山土はしまりのある土質であり、乾燥すると非常に硬化し、遺構確認作業ならびに遺構削除にも影響を与えた。

流山地形の平坦面から西傾斜面に位置するC区は、平坦面では耕作土である表土下20~30cmでローム層の遺構確認面となり、遺構の残存状況は良好ではなかった。一方、西向きの斜面は、流山頂上からの土層の堆積が厚く、遺構確認面まで1mを超える地点もあった。

流山地形の平坦面から南向き斜面にあたるD区では、耕作土である表土下10~20cmで遺構確認面となる。平坦面上ではローム層が残り遺構確認は比較的容易であったが、斜面上にあたる南側では、拳大から人頭大の礫を多量に含んだ暗褐色土の地山となっている。



1層 暗褐色土層(0YK3/3) 粘性あり、しまりは強い。
2層 暗褐色土層(0YK3/4) 黒色ブロックを多量に含む。粘性、しまりともあり。

第4図 遺跡基本土層

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡の地理的位置

本遺跡の所在する韮崎市は、山梨県の北西部、甲府盆地の北西部に位置している。東西にやや長い市域は、河川の開析などによって複雑な地形を呈しており、大きく3地域に分けることができる。

市域の東側は、茅ヶ岳の南西麓地域にあたり、緩やかな南西斜面を利用して果樹栽培を中心とした農業が行われている。市域の西側は、南アルプス連峰、巨摩山地が連なり、市域を貫流する釜無川右岸の河岸段丘上に展開する地域である。

市域の中央部は、釜無川と塩川が南北に貫流している。八ヶ岳山麓から延びる韮崎岩屑流で構成された台地が、この両河川によって浸食された韮崎台地と塩川の氾濫原にあたる低地とからなる。韮崎台地は、侵食によるほぼ垂直に切り立った断崖が形成されており、その長さから七里岩と呼ばれている。低地の氾濫原は、完新世段丘の形成によって藤井平と呼ばれる肥沃な穀倉地帯が形成されており、「藤井五千石」などともいわれている。

『甲斐国志』古跡部第十には、

穴山ヨリ南小田川・駒井・坂井・中条・下条、韮崎等ノ數村ヲ里人ハ藤井庄五千石ト云其田膏ユニ名アリ
慶長古高六千百余石後又千五六百石ヲ増ス西ハ片山新府ノ台、東ハ塩川ヲ帯ビ北ハ桐嶺川ヲ界ヒトシ藤井渠ヲ穿ツ水利自在ヲ得テ夏時水田トシ冬陸田トナス且諸村ノ末ニ居リ余水聚來ルヲ以テ田地殊ニ肥饒ナリ

と記されており、当時から著名な穀倉地帯であったことがわかる。

一方、河岸段丘上は、古くから畠地として利用されており、古くは養蚕、現在では果樹および根菜類の栽培が盛んとなっている。段丘上は岩屑流による流れ山地形となっており、起伏に富んでいる。流れ山地形によって形成された窪地は、湧水地・湿地となり、周辺に遺跡が立地する例が多い。また、流れ山地形の岩塊は、中世の城館や烽火台などとしても多く利用されている。

本遺跡は、河岸段丘上の中央、標高469m付近に立地している。

遺跡周辺では、現在もモモを主体とする果樹栽培が盛んで、大規模な耕作が行われている。

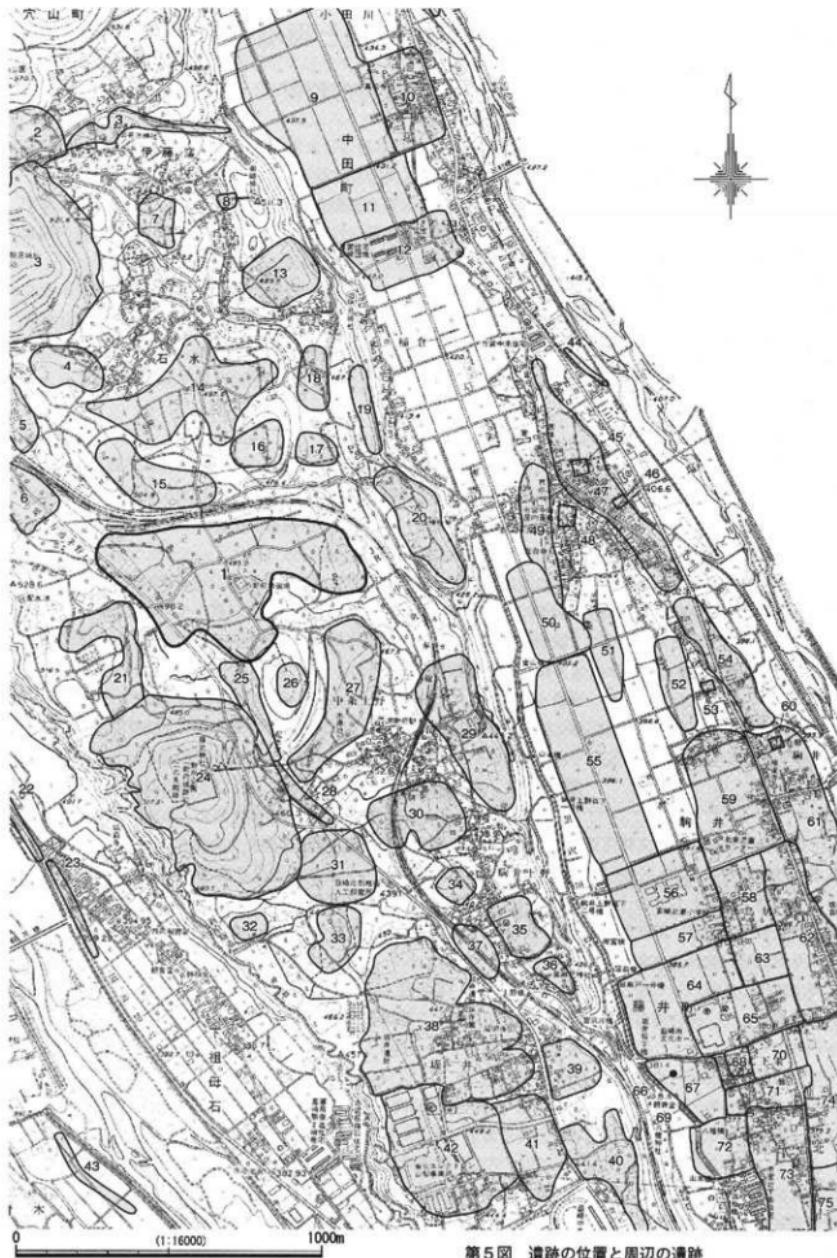
第2節 遺跡の歴史的環境

七里岩台地上には、縄文時代から中世にかけての多くの遺跡が分布しており、とりわけ縄文時代の遺跡は学史に残る著名な遺跡も分布している。

本地域は、畠地としての土地利用が主体であるため、数多くの発掘調査が行われているわけではないが、学術調査や工場建設、道路整備、個人住宅建設などに伴って発掘調査が実施され、河岸段丘上における遺跡のあり方が解明されつつある。

縄文時代の遺跡として著名なものに、坂井遺跡（第6図38）がある。坂井遺跡は、大正14年の土器の発見を契機として、志村滝蔵氏らによって昭和31年まで発掘調査が実施されたもので、山梨県内における発掘調査の先駆けとなった調査例である。この調査によって出土した縄文時代中期を中心とした出土品は、坂井考古館に保管展示されている。宿尻遺跡（同2）は、2度にわたる発掘調査が実施され、中期初頭から後期前半の住居跡などが調査されている。そのほか、縄文時代の遺跡として、伊藤窪第2遺跡（同7）、中条上野1遺跡、中条上野2遺跡、坂井天神前遺跡（同3）などが知られる。

台地上における弥生時代の遺跡としては、穴山小学校遺跡（宿尻遺跡と同一の遺跡）、伊藤窪遺跡（同8）、坂井遺跡などが知られるが、遺跡のあり方としては希薄である。一方、低位段丘面の「藤井平」にはこの時期の遺跡が濃密に分布している。宮ノ前遺跡（同56）、上横屋遺跡（同74）、下横屋遺跡（同75）、後田堂ノ前遺跡（同70）、後田第2遺跡（同71）などが知られている。宮ノ前遺跡の微高地縁辺部の埋没旧河道か



らは、弥生時代前期中葉から後葉に並行する水田跡が発見されており、東日本でも最古の水田跡とされている。上横屋遺跡においても後期の住居跡などが調査されている。上横屋遺跡の南側に隣接する下横屋遺跡からは、後期の住居跡やガラス小玉を副葬した土器棺墓などが発見されている。

古墳時代の遺跡は、台地上では本遺跡をはじめとして前期の遺跡が頗著にみられる。坂井南遺跡（同42）は、工場建設などに伴って8度にわたる発掘調査が実施されている。調査によって古墳時代前期の整穴住居跡100軒、方形周溝墓12基、掘立柱建物跡3棟などが発見された。峠北地域で最大規模の遺跡であり、集落と墓域がセットで発見された貴重な例となった。宿尻遺跡では、前期の整穴住居跡が3軒調査されている。宿尻第2遺跡では、前期の整穴住居跡39軒、掘立柱建物跡16棟などが調査され、坂井南遺跡に匹敵するような大規模集落遺跡である可能性がある。伊藤窪第2遺跡でも整穴住居跡2軒が調査されている。台地上における中・後期の遺跡はほとんど知られておらず、低位段丘上で多くの遺跡が立地するようになる。

坂井南遺跡東側の低位段丘上の三宮地遺跡（同67）の範囲に立地する火雨塚古墳（同66）は、墳丘は削平されているが横穴式石室の一部が残っている。かつてはその他にも古墳が点在していたとも言われ、群集墳を形成していたことも考えられる。後期の集落としては、坂井堂ノ前遺跡（同65）2軒、上横屋遺跡22軒、後田堂ノ前遺跡4軒、後田第2遺跡6軒などが発掘調査されている。中でも上横屋遺跡は、3次にわたる発掘調査を実施しており、第1次調査では堅穴住居跡15軒、古墳時代以降の掘立柱建物跡3棟などが発見され、1号住居跡およびその周辺から金環2点、隣接する1号土坑からは青銅製剣などが出土している。第2次調査では、古墳時代後期の堅穴住居跡7軒が発見され、そのうち10号住居跡からは、専用轎が2点出土するなどしており、後期の鍛冶遺構を伴う施設が調査されている。

台地上における奈良・平安時代の遺跡も希薄であり、古墳時代後期に始まる低位段丘への集落域の移行は、奈良・平安時代においてもその傾向に変化がない。その中にあって、坂井南遺跡の第2次調査C区では、平安時代の堅穴住居跡5軒が調査されている。

「藤井平」における奈良・平安時代の遺跡は濃密で、宮ノ前遺跡、堂ノ前遺跡（同63）、後田堂ノ前遺跡、坂井堂ノ前遺跡、後田第2遺跡、三宮地遺跡、中田小学校遺跡（同49）などが発掘調査されており、平坦面全域に集落遺跡が広がりをみせるようになる。そのうち宮ノ前遺跡では、堅穴住居跡400軒以上、掘立柱建物跡50棟以上が発見されており、正倉と思われる大型倉庫も検出されている。出土遺物にも円面鏡や三彩陶器などがあり、巨麻郡衛の一部ないし隣接する遺跡だと考えられている。その北側に隣接する宮ノ前第2遺跡（同55）では、四面庇付の守院跡と考えられる建物から瓦塔などが検出されている。

数々の発掘調査によって、この藤井平の地が弥生時代以降、水田經營を生業としながら、連綿と集落を営んできたことが理解され、巨麻郡の中において重要な役割を果たしてきた地域であることが明らかとなつてきている。

中世になると台地上も再び活況を呈するようになり、当該期の遺跡も数多く知られている。新府城跡（同24）は、1575（天正3）年、長篠の戦いで織田・徳川連合軍に敗れた武田勝頼が、領国支配強化のため、甲府の鷹岡ヶ崎館からこの地へ城を移したものである。築城は1582（天正10）年から開始され、年末には勝頼が鷹岡ヶ崎館から新府城へ移住し、その後、3ヶ月ほどで武田氏は滅亡している。新府城は国指定史跡として、現在も整備に伴う発掘調査が進められている。新府城から北西へ2kmの距離にある能見城跡は、「甲斐国志」巻之四十七古跡部第十に「新府中ノ墟・……穴山ハ外郭ノ内ナリ能見城ト云ウ狐山高爽ニシテ四望開ケ看櫓ヲ置ベシ・…某西北ヨリ東ノ方黒駒ノ内ヘ保リ旧墨アリ」とあり新府城の外郭とされる。能見城（同3）および能見城防壁は、武田勝頼によって造られたものか、徳川家康によって構築されたものかは明らかではない。その他、堂ヶ坂の砦、重久の烽火台などが知られている。また、新府城築城に際しては、穴山の伊藤窪、次第窪、石水に家臣團屋敷を配したといわれ、現在でも屋敷跡と思われる土塁が残されているが、詳細は明らかではない。坂井南遺跡の第1次調査において、16世紀代の集石土坑2基、第7次調査によつて大窯製品を伴う堅穴状遺構3棟、館跡の堀と思われる遺構などが調査されている。

藤井平においても中世以降の遺跡が立地しており、松雲寺墨跡（同45）、水上氏屋敷跡（同46）、駒井氏

屋敷（同 60）、北下條塚跡（同 68）、藏之前塚跡、殿田屋敷跡などの屋敷跡ないし伝承地が数多く知られて いる。

遺跡一覧（番号は第 5 図に対応）

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 鹿岐殿遺跡 | 39 坂井丸山遺跡 |
| 2 宿尻遺跡 | 40 章坂上遺跡 |
| 3 能見城跡 | 41 坂井南大原遺跡 |
| 4 夏日石水遺跡 | 42 坂井南遺跡 |
| 5 石水遺跡 | 43 青木下河原堤 |
| 6 南原遺跡 | 44 塩川下河原堤防 |
| 7 伊藤窪第 2 遺跡 | 45 松雲寺塚跡 |
| 8 伊藤窪遺跡 | 46 水上氏屋敷跡 |
| 9 中本田遺跡 | 47 中田中條宿遺跡 |
| 10 蓬田遺跡 | 48 水上氏屋敷跡第 2 |
| 11 中道遺跡 | 49 中田小学校遺跡 |
| 12 下木戸遺跡 | 50 金山遺跡 |
| 13 伊藤窪第 3 遺跡 | 51 中田中條前田遺跡 |
| 14 石水稻倉遺跡 | 52 立口遺跡 |
| 15 中田山道遺跡 | 53 立岩遺跡 |
| 16 山道第 2 遺跡 | 54 下木戸第 2 遺跡 |
| 17 山道遺跡 | 55 宮ノ前第 2 遺跡 |
| 18 旧新府中学校跡 | 56 宮ノ前遺跡 |
| 19 藤塚遺跡 | 57 北後田遺跡 |
| 20 藤塚長林遺跡 | 58 宮ノ前第 3 遺跡 |
| 21 田向遺跡 | 59 宮ノ前第 5 遺跡 |
| 22 薮島堤 | 60 駒井氏屋敷跡 |
| 23 上祖母石高砂堤 | 61 駒井砂宮神遺跡 |
| 24 新府城跡 | 62 宮ノ前第 4 遺跡 |
| 25 城山遺跡 | 63 堂ノ前遺跡 |
| 26 丸山塚跡 | 64 後田遺跡 |
| 27 上野丸山遺跡 | 65 坂井堂ノ前遺跡 |
| 28 中条上野古道遺跡 | 66 火雨塚古墳 |
| 29 長林遺跡 | 67 三宮地遺跡 |
| 30 駒井上野遺跡 | 68 北下條塚跡 |
| 31 駒井天神前遺跡 | 69 北下條後田遺跡 |
| 32 駒井天神前第 2 遺跡 | 70 後田堂ノ前遺跡 |
| 33 坂井天神前遺跡 | 71 後田第 2 遺跡 |
| 34 西御門第 2 遺跡 | 72 榎田遺跡 |
| 35 西御門遺跡 | 73 北下條殿田遺跡 |
| 36 西御門第 3 遺跡 | 74 上横屋遺跡 |
| 37 駒井天神前第 3 遺跡 | 75 下横屋遺跡 |
| 38 坂井遺跡 | |

第3章 遺構と遺物

本遺跡からは、A～D区合わせて、縄文時代から平安時代にかけての竪穴住居44軒、竪穴状遺構3軒、掘立柱建物3棟、溝30条、土坑195基、ピット279基、性格不明な遺構4基などが発見された。

微細な土器片などは、調査日ごとに遺構単位で取り上げを行ったが、それ以外は、個々に光波測量機によって位置を記録しながら取り上げ作業を行った。

第1・2表の土坑・ピット一覧表以外の記載に用いる遺物点数は、微細な遺物を除外した光波測量機による取り上げを行った遺物点数である。

第1節 竪穴住居跡

1号住居（第6図）

位 置 X = 106、Y = 213 グリッド

主 軸 N - 22° - W

遺構概要 西側に21号ピット、8号溝が隣接する。

東側は斜面下方にあたり、削平を受け残存していない。東西は現存長3.48m、南北4.33mを測る隅丸方形のプランを呈するものと思われる。深さは北側で0.07m、南側で0.11m、西側で0.2mである。柱穴は対角線上付近に4本を配している。残存する掘り込みは浅く、深さは北西0.35m、北東0.32m、南西0.29m、南東0.26mとなる。

炉 北西の柱穴付近に長径1.2m、短径0.59m、深さ0.08mの掘り込みがみられた。不整の長楕円形を呈しており、土層の断面観察によって、炉の作り替えが行われたことが明らかとなり、北側の炉が新しく南北0.82mの規模である。

遺物出土状況（第6図） 住居の残存状況が悪いために遺物は少なく、45点ほどが出土しているにすぎない。中央付近でS字型、南側の隅寄りで台付壺の脚部、西壁際で壺が出土している。

出土遺物（第31図） 第31図1は壺型土器の頭部である。有段口縁となるかどうかは不明。同2・3はS字壺の口縁部ならびに脚部である。

時 期 古墳時代前期末

2号住居（第7図）

位 置 X = 86、Y = 213 グリッド

主 軸 N - 13° - W

遺構概要 東に6号土坑、南に24号ピットが隣接し、北側に削削されていた5・6号溝に切られる。南西側は調査区外となり、ほぼ半分は未調査である。

東西6.6m、南北6.47mを測る隅丸方形のプランを呈する。南東および北西隅はやや角が立った状況を示す。深さは北側で0.2m、東側で0.23m、南側で0.17mとなる。柱穴は対角線上付近に3本確認され、南西は調査区外のため未確認である。深さは北西0.72m、北東0.8m、南東0.84mであった。また、北西隅付近で径0.5mのピットが確認されたが、性格不明。

炉は、調査区外にあると思われ、未確認である。

遺物出土状況（第8図） 住居全体から遺物が出土しているが、60点ほどと少ない。南東隅付近からは、壺、小型壺が出土している。北西隅付近では壺、高壺ないし器台の脚部などが出土している。北壁際では砥石が出土している。

出土遺物（第31・33図） 壺型土器が2点出土しており、単純口縁のもの（第31図4）と、有段口縁のもの（同5）がみられる。また、小型の壺もみられる（同6）。S字壺は口縁部の破片資料であるが出土している（同

7)。同8は高壙ないし器台の脚部である。石器には砥石(第33図15)と打製石斧(同14)がある。
時期 古墳時代前期末

3号住居(第9図)

位置 X = 80、Y = 220 グリット
主軸 N - 18° - W

遺構概要 北に11号土坑、西に26・27号ピットが隣接し、南側で重複する4号住居を切る。東側はほとんどが調査区外となり未調査である。

確認された規模は、東西1.18m、南北4.96mで、小判型のプランを呈するものと思われる。深さは、北側で0.39m、西側で0.45mである。

住居の南壁寄りで床面から焼土の広がりが確認されたが、柱穴や炉などの付属施設は確認されなかった。

遺物出土状況(第9図) 調査範囲が狭小であったために出土遺物は少なく、30点ほどが出土しているにすぎず、小破片が多い。住居南側でS字甕が北側で長頸瓶の頸部が出土している。

出土遺物(第31図) 第31図9は、内外面とも赤彩された長頸壺の口縁だと思われる。4号住居と重複関係にあることから、本住居に伴うものではない可能性もある。同10・11はS字甕の口縁部である。

時期 古墳時代前期末

4号住居(第9図)

位置 X = 76、Y = 221 グリット
主軸 N - 26° - W

遺構概要 西に12号土坑が隣接し、北側で重複する3号住居、西側で重複する7・8号土坑に切られる。

東側は調査区外となっており、遺構のほとんどは未調査である。

確認された規模は、東西1.14m、南北5.5mで、小判型のプランを呈するものと思われる。深さは、北側で0.02m、南側で0.15m、西側で0.4mである。柱穴は北西側と南側で2本確認された。深さはそれぞれ0.06m、0.16mである。

柱穴や炉などの付属施設は確認されなかった。

遺物出土状況(第9図) 調査範囲は狭小なうえ、3号住居に北側を削平されているために出土遺物は少なく、10点足らずである。住居中央よりやや北側で甕が潰れた状態で床面直上で出土している。

出土遺物(第31図) 第31図12は、無文の甕である。器壁は摩耗が激しく明瞭ではないが、頸部付近にハケの痕跡を認めることができる。

時期 弥生時代後期

5号住居(第10図)

位置 X = 57、Y = 229 グリット
主軸 N - 85° - W

遺構概要 A区1号住居と同一の遺構。

B区においては、住居南西隅が調査区内となったため、別名称を付して調査した。遺構・遺物の詳細は『總岐殿遺跡II』を参照のこと。

時期 古墳時代前期末

6号住居(第12図)

位置 X = 63、Y = 221 グリット
主軸 N - 24° - W

遺構概要 北に 38 ピットが隣接し、西側は調査区外となる。

東西は現存長で 3.23 m、南北 4 m の隅丸方形プランを呈する。深さは、北側で 0.37 m、東側で 0.34 m、南側で 0.33 m である。柱穴は東側の列が確認されたが、西側の列は調査区外にあたるようで未確認である。

深さは、北東で 0.37 m、南東で 0.47 m である。

炉 住居の中央よりやや北側に位置する。長径 0.61 m、短径 0.55 m、深さ 0.09 m の不整円形を呈する。南側には比較的大型の礫を枕石として配している。

遺物出土状況（第 12 図） 住居の東半しか調査することが出来ず、出土遺物も 25 点ほどとわずかである。

遺物は住居北側に集中する傾向にあり、壺や甕の破片が出土している。

出土遺物（第 32 図） 第 32 図には有段口縁壺の口縁部、同 13・14 は壺の底部である。

時期 古墳時代前期末

7号住居（第 13 図）

位置 X = 139、Y = 202 グリット

主軸 N - 6° - W

遺構概要 北に 1・2・4 号ピット、1 号溝、南に 18 号土坑、62・72 号ピット、西に 1 号不明遺構、21 号土坑が隣接する。南西の 9・10 号溝を切り、北側の 5 号ピット、上層を東西に走る 2 号溝に切られる。

急傾斜面のため、斜面下方にあたる東側は削平され、残存していない。残存する東西長 5.02 m、南北長 6.1 m を測る隅丸方形を呈する。深さは、北側で 0.16 m、南側で 0.42 m、西側で 0.49 m である。柱穴は、対角線状にあたる付近に 4 本確認された。深さは北西 0.27 m、北東 0.24 m、南西 0.36 m、南東 0.22 m である。

炉 住居西側に炉の痕跡が並んで 2ヶ所確認された。北側の炉は、長径 0.4 m、短径 0.36 m、深さ 0.1 m の規模である。南側の炉は、長径 0.36 m、短径 0.3 m、深さ 0.02 m であった。炉の新旧関係は不明。

貯蔵穴 南西隅付近に長径 0.57 m、短径 0.42 m、深さ 0.18 m の規模の土坑が確認され、位地から貯蔵穴の可能性も高いが、掘り込みが浅く断定はできない。また、壁との間に小型のピットが確認されたが、性格は不明である。

遺物出土状況（第 14 図） 住居の残存状況は悪く、90 点ほどの遺物が出土しているが、縄文土器の破片も多く、住居に伴うであろう土師器は小破片で図示できるものはほとんどない。

出土遺物（第 32 図） 第 32 図 15 は、有段口縁壺の頭部である。

時期 古墳時代前期末

第 2 節 溝 跡

1号溝（第 15 図）

位置 X = 145、Y = 199 ~ X = 143、Y = 202 グリット

主軸 不明

遺構概要 調査区の北端に位置し、北側、東側は調査区外へと延びる。中世の造成面を遺構確認面としている。

現存長 4.3 m、幅は、東側で 1.25 m、中央部で 0.82 m、西側で 0.42 m、深さは、東側で 0.1 m、中央部で 0.1 m、西側で 0.02 m を測る。遺構は東西に掘削されているが、西側では直角に屈曲する。

出土遺物はない。

時期 不明

2号溝（第 15 図）

位置 X = 137、Y = 196 ~ X = 140、Y = 203 グリット

主軸 N - 64° - E

遺構概要 北側に1号不明遺構、南側に9・10号溝が隣接する。西側は調査区外へ延びる。

遺構は、7号住居上に掘削されており、住居を切る。1号溝同様、中世の造成面を遺構確認面としている。

現存長7.7m、幅は、東側で0.52m、中央部で0.6m、西側で1.6m、深さは、東側で0.1m、中央部で0.1m、西側で0.06mを測る。

遺物出土状況 (第15図) 繩文土器の破片が7点ほど出土しているが、本遺構の構築時期を示すものではない。遺物は、小破片のため図示できるものはない。

時期 古墳時代前期以降

3号溝 (第16図)

位置 X = 118、Y = 204 グリット

主軸 N - 72° - E

遺構概要 北側に8・14号ピット、南側に9号ピット、4号溝が隣接する。

全長3.29m、幅は、東側で0.55m、西側で0.58m、深さは、東側で0.05m、西側で0.05mを測る。

遺物出土状況 (第16図) 繩文土器がわずか1点出土したのみである。小破片のため図示できない。

時期 不明

4号溝 (第16図)

位置 X = 118、Y = 204 ~ X = 118、Y = 208 グリット

主軸 N - 82° - E

遺構概要 北側に3号溝、南側に29号ピットが隣接する。東側は調査区外へと延びる。南側で重複する9号土坑を切り、東側で重複する10号土坑に切られる。

現存長4.95m、幅は、東側で0.54m、西側で0.42m、深さは、東側で0.05m、西側で0.06mを測る。

出土遺物はない。

時期 不明

5号溝 (第16図)

位置 X = 89、Y = 212 ~ X = 86、Y = 213 グリット

主軸 N - 11° - W

遺構概要 調査区のほぼ中央に位置する。南西は調査区外へと延びる。2号住居上に掘削されており、住居を切る。

全長4.6m、幅は、北側で0.47m、南側で0.35m、深さは、北側で0.06m、南側で0.06mを測る。覆土は非常に軟質で、烟堺に位置していることから、烟堺の根切り溝の可能性が高い。

遺物出土状況 (第15図) 繩文土器がわずか1点出土したのみである。中期後半のものと思われるが、小破片のため図示できるものではない。

時期 近世以降

6号溝 (第17図)

位置 X = 89、Y = 215 グリット

主軸 N - 80° - E

遺構概要 北側に23号ピット、南側に6号土坑が隣接する。西側で重複する2号住居を切る。

全長2.21m、幅0.5m、深さ0.1mを測る。5号溝同様、覆土は非常に軟質で、烟堺に位置していることから、烟堺の根切り溝の可能性が高い。

出土遺物はない。

時期 近世以降か

7号溝（第18図）

位置 X = 50、Y = 224～X = 55、Y = 279 グリット

主軸 N - 88° - E

遺構概要 北側に5号住居（A区1号住居）、37号ピットが隣接する。西側は調査区外へ延びる。A区1号溝と同一の溝である。本調査区にも遺構が延びていたために、別名称を付して調査した。A区29・43・44号土坑を切り、A区2号堅穴状遺構に切られる。

A区も含めた現存長565m、幅は、東側で3.3m、中央部で3.4m、西側で3.6m、深さは、東側で0.53m、中央部で0.47m、西側で0.71mを測る。

A区で検出された状況と同様に、溝は再掘削の痕跡が認められ、底部にはピット状の浅い掘り込みをもつ。溝の詳細は、『鶴岐殿跡II』を参照のこと。

遺物出土状況（第18図） 溝の覆土中より陶磁器類が出土しているが、近世以降のものが多い。いずれも小破片で図示できるようなものはない。

時期 中世から近世か

8号溝（第17図）

位置 X = 104、Y = 209～X = 96、Y = 212 グリット

主軸 N - 18° - W

遺構概要 東側に1号住居、21号ピット、西側に20号ピットが隣接する。中央付近で4号土坑に切られ、南側でカクランを受ける。

全長9.66m、幅は、北側で0.37m、中央付近で0.89m、南側で1.55m、深さは、北側で0.02m、中央付近で0.03m、南側で0.03mを測る。

出土遺物はない。

時期 不明

9号溝（第19図）

位置 X = 135、Y = 201 グリット

主軸 N - 13° - E

遺構概要 西側に10号溝、南側に6号ピットが隣接する。中央付近で18号土坑を切り、北側を7号住居に切られる。

全長3.1m、幅1.04m、深さ0.38mを測る。溝は南側で東へ向かって屈曲する。

出土遺物はない。

時期 古墳時代前期以前

10号溝（第19図）

位置 X = 135、Y = 199 グリット

主軸 N - 30° - E

遺構概要 北側に2号溝、東側に9号溝が隣接する。北東側で7号住居に切られる。

全長3.7m、幅は、北側で0.75m、中央部で0.98m、南側で0.73m、深さは、北側で0.13m、中央部で0.09m、南側で0.23mを測る。

遺物出土状況（第19図） 覆土中より、縄文土器の小破片が3点出土したのみである。いずれも中期後半のものであるが、図示できるものはない。

第3節 性格不明遺構

1号性格不明遺構（第20図）

位置 X = 141、Y = 198 グリット

主軸 N - 20° - W

遺構概要 東側に7号住居、3号ピット、南側に2号溝、西側に17・19号土坑、73・74号ピットが隣接する。20・21号土坑、75号ピットと重複し、いずれをも切る。

東西1.48m、南北3.53m、深さ0.59mを測る。溝状のプランを呈するが、長さに比して幅があることから、不明遺構として調査したが、溝の可能性も多い。性格は不明。

出土遺物はない。

時期 不明

第4節 土坑・ピット

本調査によって、21基の土坑と76基のピットが発見された。土坑とピットの区分は、径50cmほどを境界として大きいものを土坑、小さいものをピットとした。ただし、プラン確認の段階で遺構名称を付しているため、プラン確認の困難な遺跡であることもあり、調査の進捗によって当初予想した規模と異なる遺構も多々あった。よって、調査結果をもって厳密に区分したものではなく、両者の規模に齟齬が生じている場合もある。個々の遺構データについては、第1・2表にまとめた。

土坑・ピットのうち、1・2号土坑、1～7号ピットは、中世の造成面を遺構確認面としていることから、中世以降に掘削されたものである。

ここではいくつかの特徴的な遺構について概観する。

土坑

遺構の概要（第1表・第20～23図）

土坑は、21基調査されているが、出土遺物がないものが多い。その中で、6号土坑は、径0.75m、深さ0.2m足らずの小さな土坑であるが、覆土中より陶器片がまとまって出土した。陶器は、大窯製品の祖母懐の茶壺（第32図16）である。

8号土坑は、長径1.09m、短径0.74mを測る隅丸長方形の土坑であるが、覆土中央付近から寛永通寶（第33図11）が1点出土している。

ピット

遺構の概要（第2表・第24～30図）

ピットは、76基が調査されているが、建物配置を示すような柱穴列は確認できていない。また、遺物を出土した遺構も少なく、数基にとどまる。出土遺物の多くは縄文土器で、中期のものと思われる。いずれも小破片であり、図示できるようなものはない。

第1表 土坑一覧表

() の中の数値は残存幅 単位:m		上端	下端	深さ	主軸	出土遺物	備考
遺構名	グリッド	形態	長径×短径	長径×短径			
1号土坑	121-201	楕円形	0.72×0.69	0.42×0.38	0.40	N=45°→E	上部2
2号土坑	123-202	楕円形	0.49×0.34	0.48×0.44	0.20	N=20°→W	土器2
3号土坑	118-208	不整楕円形	0.96×0.92	0.87×0.79	0.12	N=18°→W	土器3
4号土坑	108-211	不整	0.77×(0.69)	0.65×(0.61)	0.03	N=87°→E	上部1
5号土坑	109-212	不整	1.22×(0.78)	0.93×0.64	0.09	N=76°→E	5号土坑に切られる 4号土坑を切り、30号ビットと重複
6号土坑	89-217	不整楕円形	0.76×0.73	0.66×0.53	0.19	N=72°→E	土器1、陶器8
7号土坑	76-219	不整楕円形	1.07×1.03	0.63×0.45	0.50	N=26°→W	土器2
8号土坑	78-220	椭丸形	1.09×0.74	0.89×0.62	0.29	N=17°→W	上部9、赤陶製品1
9号土坑	117-206	不整	(0.54)×0.42	(0.51)×0.36	0.03	N=23°→E	4号土坑に切らる
10号土坑	118-208	不整	(0.99)×0.78	0.76×0.64	0.09	N=29°→E	4号土坑に切れる 水俣茎葉区外
11号土坑	82-219	下部	0.67×(0.61)	(0.31)×0.45	0.33	S=70°→E	土器3 32号ビットと重複。東側脚趾区外
12号土坑	74-219	椭丸形	0.87×0.50	0.79×0.39	0.19	N=14°→W	
13号土坑	66-224	不整	0.65×(0.36)	0.52×(0.34)	0.07	N=75°→E	東側脚趾区外
14号土坑	120-207	不整楕円形	1.47×1.10	1.27×0.94	0.36	N=84°→E	土器24
15号土坑	126-204	不整楕円形	0.74×0.54	0.59×0.33	0.18	N=32°→E	土器30
16号土坑	137-203	不整楕円形	(0.59)×0.37	0.43×0.27	0.12	S=50°→W	34号ビットを切る 70号ビットと隣接
17号土坑	138-197	不整楕円形	0.66×0.36	0.56×0.41	0.20	N=32°→E	上部6
18号土坑	138-201	不整円形	0.31×0.49	0.27×0.25	0.15	N=20°→W	3号土坑に切られる
19号土坑	140-196	不整楕円形	1.29×1.07	0.67×0.47	0.50	N=59°→W	土器8
20号土坑	140-197	不整	0.70×(0.26)	0.37×(0.12)	0.43	-	1号不明遺構に切られる
21号土坑	142-198	不整	0.90×(0.71)	0.73×(0.64)	0.07	N=20°→W	1号不明遺構に切られる

第2表 ピット一覧表

() の中の数値は換算値 単位:m		上端	下端	深さ	出土遺物	備考
遺構名	グリッド	形態	長径×短径			
1号ピット	143-200	楕円形	0.32×0.24	0.26×0.13	0.13	
2号ピット	143-200	不整橢円形	0.29×0.26	0.14×0.12	0.15	
3号ピット	142-198	楕円形	0.21×0.17	0.09×0.09	0.18	
4号ピット	141-200	円形	0.23×0.10	0.23×0.10	0.13	8号櫛を切る
5号ピット	141-199	不整円形	0.37×0.36	0.25×0.25	0.16	7号柱北西隅を切る
6号ピット	132-200	不整円形	0.36×0.34	0.17×0.11	0.16	
7号ピット	124-202	不整橢円形	0.57×0.38	0.50×0.32	0.2	土器7
8号ピット	119-203	不整円形	0.44×0.40	0.32×0.29	0.07	
9号ピット	117-203	不整橢円形	0.41×0.30	0.23×0.18	0.16	上部2 4号櫛に切られる
10号ピット	116-204	不整橢円形	0.44×0.33	0.37×0.25	0.06	下部2 4号櫛を切る
11号ピット	116-207	楕円形	0.39×0.17	0.17×0.10	0.04	
12号ピット	115-207	不整橢円形	0.36×0.33	0.24×0.24	0.05	
13号ピット	114-208	円形	0.34×0.31	0.26×0.26	0.04	上部3
14号ピット	114-203	不整	0.60×0.50	0.34×0.21	0.15	土器5
15号ピット	111-207	不整橢円形	0.51×0.38	0.39×0.26	0.14	土器1
16号ピット	111-206	不整橢円形	0.62×0.40	0.50×0.27	0.1	上部8
17号ピット	116-211	不整橢円形	0.35×0.22	0.16×0.12	0.11	
18号ピット	109-208	不整橢円形	0.60×0.48	0.28×0.26	0.15	土器1 9号櫛に切られる
19号ピット	103-207	不整橢円形	0.37×0.29	0.30×0.22	0.02	
20号ピット	102-209	不整橢円形	0.25×0.16	0.17×0.08	0.03	
21号ピット	100-212	不整橢円形	0.26×0.21	0.12×0.12	0.07	1号不明遺構に切られる
22号ピット	91-214	円形	0.50×0.50	0.43×0.40	0.07	1号不明遺構に切られる
23号ピット	80-216	円形	0.52×0.48	0.45×0.40	0.06	
24号ピット	83-217	不整橢円形	0.23×0.20	0.12×0.08	0.17	
25号ピット	80-216	不整橢円形	0.39×0.23	0.17×0.14	0.45	土器1
26号ピット	79-217	不整橢円形	0.35×0.29	0.28×0.26	0.05	
27号ピット	79-217	不整橢円形	0.36×0.48	0.43×0.33	0.1	
28号ピット	100-208	小型両丸長方形	0.28×0.15	0.07×0.05	0.11	
29号ピット	117-207	不整橢円長方形	0.22×0.18	0.13×0.05	0.04	
30号ピット	39-212	不整	0.36×(0.33)	(0.26)×0.20	0.05	6号上部と墓室
31号ピット	111-207	不整円形	0.36×0.31	0.21×0.21	0.06	土器1
32号ピット	80-219	不整	0.57×(0.26)	0.30×(0.21)	1.04	11号土坑と墓室 東側壁以外
33号ピット	67-224	不整橢円形	0.31×0.26	0.23×0.19	0.08	
34号ピット	55-223	不整円形	0.19×0.20	0.14×0.13	0.04	
35号ピット	54-224	小盤	0.27×0.27	0.15×0.14	0.09	36号ピットと隣接
36号ピット	54-224	不整円形	0.17×0.15	0.06×0.05	0.07	35号ピットと隣接
37号ピット	53-224	円形	0.25×0.25	0.17×0.17	0.08	
38号ピット	66-220	円形	0.26×0.27	0.20×0.23	0.03	
39号ピット	66-223	不整橢円形	0.27×0.23	0.20×0.16	0.07	
40号ピット	120-209	不整橢円形	0.37×0.30	0.32×0.46	0.04	
41号ピット	120-206	不整円形	0.50×0.47	0.44×0.41	0.04	
42号ピット	120-206	小盤	0.26×0.25	0.19×0.15	0.03	
43号ピット	123-208	不整円形	0.14×0.13	0.04×0.03	0.04	44号ピットと隣接
44号ピット	123-205	不整橢円形	0.15×0.14	0.05×0.03	0.07	43号ピットと隣接
45号ピット	126-207	不整	0.44×(0.39)	0.16×0.06	0.19	46号ピットに切られる
46号ピット	126-206	不整	0.61×0.45	0.23×0.13	0.09	45号ピットを切り、47号ピットに切られる
47号ピット	127-206	不整	0.60×0.40	0.34×0.22	0.1	46号ピットを切り
48号ピット	127-207	不整橢円形	0.22×0.17	0.16×0.12	0.06	
49号ピット	128-206	小盤	0.23×0.21	0.19×0.16	0.04	
50号ピット	129-206	不整橢円長方形	0.26×0.21	0.14×0.13	0.06	
51号ピット	125-206	不整橢円形	0.14×0.13	0.05×0.04	0.02	
52号ピット	126-206	小盤	0.18×0.12	0.10×0.08	0.02	
53号ピット	127-205	不整橢円形	0.15×0.11	0.04×0.03	0.05	
54号ピット	126-203	椭円形	0.32×0.30	0.18×0.14	0.16	15号上部に切られる
55号ピット	126-203	不整円形	0.12×0.11	0.07×0.05	0.04	
56号ピット	123-203	不整円形	0.18×0.17	0.05×0.05	0.04	
57号ピット	125-203	不整橢円形	0.47×0.23	0.32×0.14	0.08	上部4
58号ピット	126-203	不整円形	0.36×0.36	0.22×0.19	0.06	
59号ピット	127-201	不整橢円形	0.21×0.16	0.12×0.07	0.06	60号ピットと隣接
60号ピット	127-201	不整橢円形	0.26×(0.22)	0.19×0.16	0.04	59号ピットと隣接
61号ピット	123-204	不整橢円形	0.41×0.35	0.28×0.19	0.14	
62号ピット	134-203	不整橢円形	0.40×0.35	0.23×0.19	0.18	
63号ピット	129-202	不整円形	0.24×0.22	0.19×0.19	0.04	
64号ピット	131-202	小盤	0.18×0.17	0.05×0.05	0.04	
65号ピット	131-202	不整橢円長方形	0.26×0.21	0.14×0.13	0.06	
66号ピット	131-201	不整橢円形	0.54×0.28	0.42×0.10	0.19	土器1
67号ピット	131-201	不整橢円形	0.42×0.36	0.32×0.16	0.21	
68号ピット	131-201	不整	0.31×0.24	0.09×0.05	0.11	
69号ピット	131-200	不整円形	0.26×0.23	0.20×0.19	0.11	
70号ピット	131-200	不整円形	0.28×0.25	0.16×0.15	0.10	土器1
71号ピット	132-203	不整	(0.19)×0.15	(0.10)×0.06	0.04	16号上部と隣接
72号ピット	133-203	不整橢円形	0.37×0.32	0.11×0.10	0.15	
73号ピット	135-203	小盤	0.26×0.25	0.11×0.11	0.1	
74号ピット	141-196	不整	×0.67	×0.50	0.13	74号ピットを切る
75号ピット	141-196	不整	×0.47	×0.30	0.18	75号ピットに切られる
76号ピット	142-197	不整	0.57×(0.39)	0.34×(0.20)	0.18	1号不明遺構に切られる
77号ピット	75-216	不整	0.42×(0.24)	0.35×(0.18)	0.08	西半壁塗以外

第3表 出土遺物觀察表(土器)

「はがれ実業社」「はがれ実業社」は、どちらの社員も、また、これらの社員は、何時によるものである。

第4表 出土遺物観察表(土製品)

1. 法量()は復元実測値、()は現存値である。
 2. 現存半は、認されたうちのもの／個体全分のうちのものを示す。また、これらの数値は各層によるものである。

遺構名	回収番号	種別	法量 (cm・g)		要形特徴			色調	断面	参考
			(口)幅・高さ・長さ・厚さ	重量	内面	外曲	表面			
5号住居	33-10	漆鉢蓋	4.7・6.8・1.3	30.5	ナガ、ヘラク 丸み			にぶい黄緑(BR2/4)	白色粒子多、赤・黒色粒子	光沢 塗装剥離

第5表 出土遺物観察表(金属製品)

法量()は復元実測値、()は現存値である。

遺構名	回収番号	種別	法量			参考
			長さ・幅(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	
8号土瓦	33-11	古鉄	22.5	2.5	2.0	光沢有

第6表 出土遺物観察表(石器)

法量()は復元実測値、()は現存値である。

出土遺物	回収番号	種別	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	参考
5号住居	33-12	石版	黒曜石	18.0	15.7	3.2	0.5	
遺構外	33-13	石版	黒曜石	20.0	17.6	3.2	0.9	
2号住居	33-14	打製石斧	砂岩	79.8	50.7	15.0	55.0	
2号住居	33-15	石刀	細粒砂岩	[7.4]	2.4	1.4	[32.9]	

第4章　まとめ

本調査区は、市教育委員会調査区東側に隣接する地区で、中世の建物群に関連する施設の発見も期待された。

市教育委員会調査区とB区を挟んだA区の発掘調査は、B区に先立って行われ、残存状況は良好ではなかつたが、中世に比定される掘立柱建物が2棟発見された。

しかし、B区では、一部において中世の造成面が確認されたものの、平坦に整地されたものではなく、地山の斜面傾斜に沿ったものであった。

本調査区で中世の遺構として断定できるものに、A区1号溝の延長である7号溝、6号土坑がある。

7号溝はA区1号溝と同じ方をしており、溝底にピット状の掘り込みが確認された。7号溝（A区1号溝）上には、A区2号竪穴状遺構が構築されている。遺構内からは、古瀬戸の四耳壺、祖母懐の茶壺、白磁皿、北宋銭などが出土している。四耳壺は古瀬戸後期4期に比定されるものである。白磁皿は端反皿で15世紀後半代のものである。いずれも戚信財の可能性があり、直ちに遺構の構築年代を示すものではないと考えた方がよいが、少なくとも16世紀代に比定できる遺構であると考えられる。この竪穴状遺構の覆土中には29号土坑が掘り込んでいる。土坑内からは、白磁の端反皿が2点出土している。15世紀後半のものと16世紀前半のものがみられ、古手のものは2号竪穴状遺構出土のものと類似した形態を示している。これらの遺物は、一般的な集落遺跡から出土するものではないことから、建物群と何らかのかかわりをもつ遺構であると考えることもできるかもしれない。

この二つの遺構の下には1号溝が掘削されている。1号溝からは遺構の掘削時期を断定するような遺物の出土はみられなかったものの、2号竪穴状遺構は構築にあたって、1号溝上に褐色土を薄く張って貼り床状にしており、2号竪穴状遺構が1号溝より新しいことは明らかである。また、竪穴床面付近より出土した四耳壺は、1号溝のプラン上に多くが分布しているが、プランの外側にも破片が分布しており、竪穴状遺構が新しいとする根拠の補強になる。

2号竪穴状遺構の構築がいつであったのかという問題も残るが、16世紀前半代に比定される端反皿を出土した29号土坑に切られていたことから、16世紀半ば以降であると考えられ、特異な遺物であることを考慮するならば建物群との関連性をうかがわせ、同時期に存在したものと考えたい。1号溝もそれに近い時期の構築であるとができる。

D区の16号溝も1号溝の延長線上にあり同じく規模も大きいことから、同一の溝と判断され、発見された長さは165mほどとなることから、これだけの規模の掘削を伴う工事は、屋敷の建設を契機としたものにはかならないと考えられる。

また、屋敷に近い地点で確認された6号土坑からは、祖母懐の茶壺の破片がまとまって出土している。市教育委員会調査区の建物群からは、祖母懐の茶壺をはじめとした茶道具が発見されており、6号土坑の茶壺も屋敷で使用されていたものが廃棄されたものであるといえよう。

建物群をもつ屋敷は、おおよそ市教育委員会調査地区的規模をもって収まっているようであるが、周辺には掘立柱建物や竪穴状遺構、溝などがあり、ある程度の広がりをもっていることが明らかとなった。

参考文献

- 伊藤正彦 1997「坂井南集落—藤井平から七里岩台地へ—」『坂井南遺跡Ⅲ』
岡間俊明 2010「『隱岐殿遺跡②』『2009年度下半期 遺跡調査発表会要旨』 山梨県考古学協会
九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』
佐崎市教育委員会ほか 1984『坂井南遺跡』
1985『中田小学校遺跡』
1987『中本田遺跡 堂ノ前遺跡』

- 1988a 「坂井南」
 1988b 「前田遺跡」
 1989 「後田遺跡」
 1990 「北後田遺跡」
 1991a 「下横屋遺跡」
 1991b 「北下条遺跡」
 1991c 「宮ノ前第2遺跡 北堂地遺跡」
 1992a 「上本田遺跡」
 1992b 「宮ノ前遺跡」
 1993a 「宮ノ前第3遺跡」
 1993b 「山影遺跡」
 1994 「立石遺跡」
 1995a 「坂井南（大原）遺跡」
 1995b 「宮ノ前第4遺跡」
 1996a 「後田第2遺跡」
 1996b 「枇杷塚遺跡」
 1996c 「坂井堂ノ前遺跡」
 1997a 「後田堂ノ前遺跡」
 1997b 「坂井南遺跡Ⅲ」
 1997c 「宮ノ前5遺跡」
 1998a 「三宮地遺跡」
 1998b 「能見城跡」
 1999a 「下木戸第2遺跡」
 1999b 「上横屋遺跡」
 1999c 「史跡 新府城」 —環境整備事業にともなう発掘調査報告書 I—
 2001a 「下横屋第2遺跡」
 2001b 「史跡 新府城」 —環境整備事業にともなう発掘調査報告書 II—
 2003a 「下横屋遺跡Ⅲ」
 2003b 「下横屋遺跡IV」
 2004 「宿尻第2遺跡」
 2005 「下横屋遺跡第5地点」
 2007 「上横屋遺跡第3地点」
 2007 「坂井南遺跡IV」

藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』 第10輯
 宮澤公雄 2010 「隱岐殿遺跡①」「2009年度下半期 遺跡調査発表会要旨」 山梨県考古学協会

山梨県 1998 「山梨県史」 資料編1 原始・古代1 考古（遺跡）

山梨県 1999 「山梨県史」 資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物）

山梨県 2004 「山梨県史」 資料編7 中世4 考古資料

山梨県教育委員会 1987 「金の尾遺跡・無名墳（きつね塚）」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第25集

山梨県教育委員会 1993 「平野遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第78集

山梨県教育委員会 1993 「東山北遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第79集

山梨県教育委員会 1993 「宿尻遺跡」 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第81集

横田賛次郎・森田勉 1978 「大宰府出土の輸入中国陶磁器について 一形式分類と編年を中心にして—」『研究論集』4 九州歴史資料館

おわりに

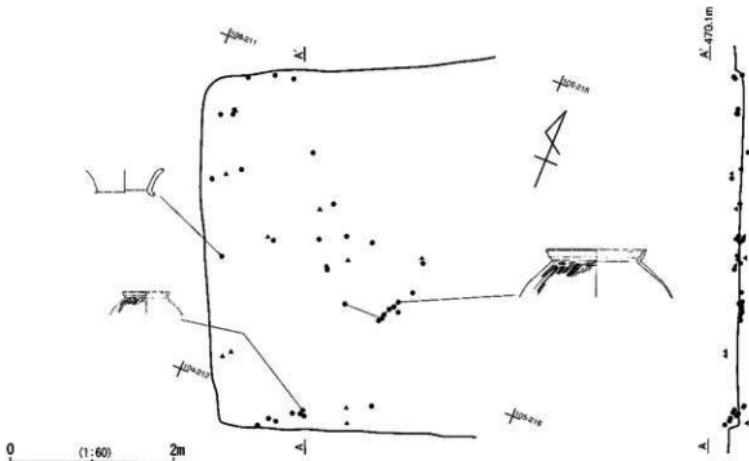
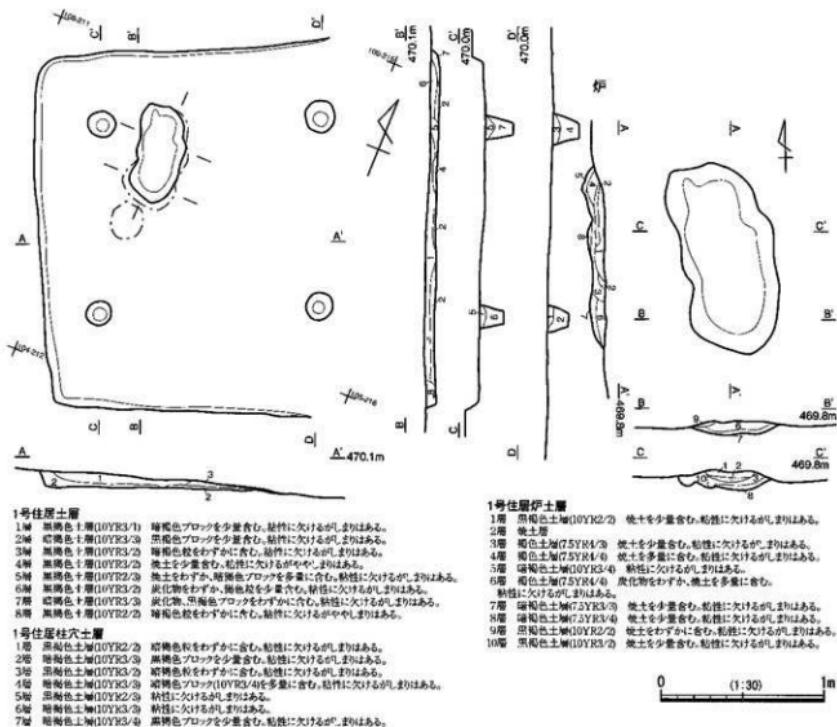
本調査区は、現況の農道の拡幅工事に伴う発掘調査であったために、A・C・D区のような雑木の伐採作業から調査を開始するような作業は伴わない調査であった。

しかし、調査区の南側では、現況の農業用道路ということもあり、農作業に支障をきたさないような調査をしなければならなかった。表土掘削後、直ちに調査、測量、埋戻しの現状復元と慌ただしい調査地点もあつた。

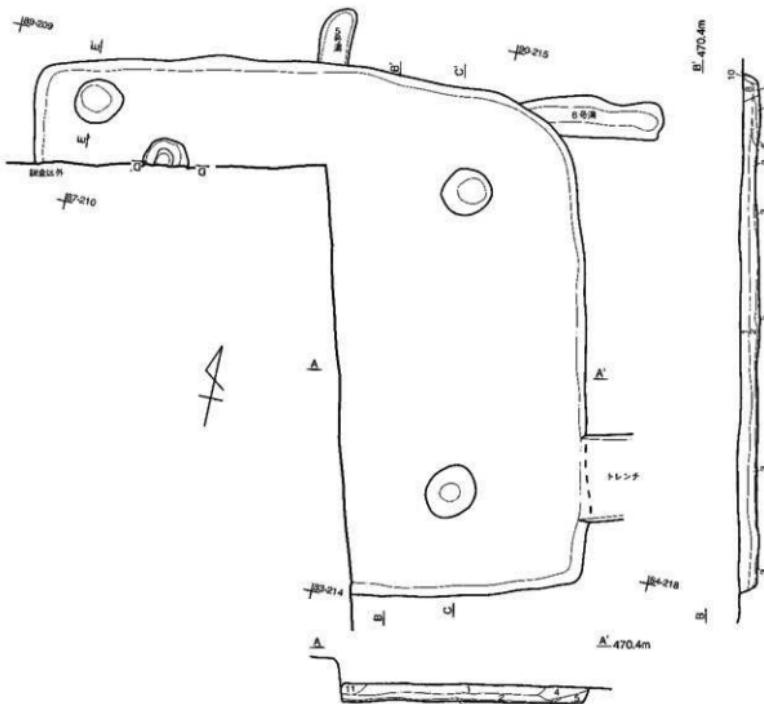
調査区の北側では、市教育委員会調査区に隣接しており、中世の遺構群が発見されることも期待されたが、建物群に関連するような遺構を発見することができなかった。

A区の伐採作業は、暮も押し迫った2009年12月21日から実施している。本調査区の調査終了まで10ヶ月の長丁場の発掘調査であった。

最後になりましたが、発掘調査ならびに報告書刊行に向けた整理作業にあたりご協力いただきました機関・各位、発掘・整理作業に従事していただいた方々に対しお礼申し上げます。



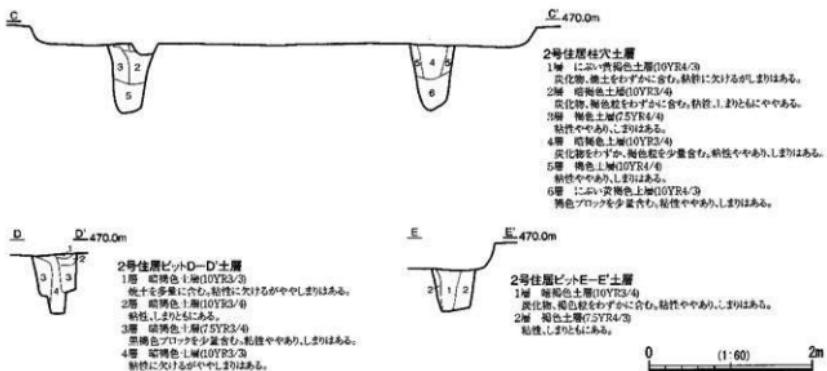
第6図 1号住居



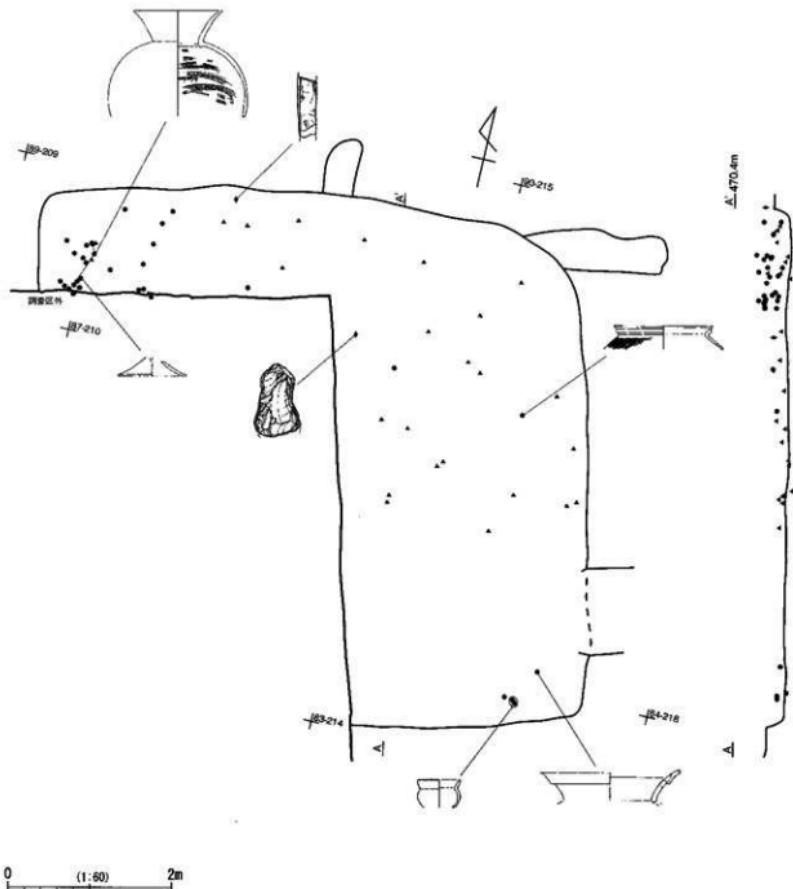
2号住居土層

- 1層 褐褐色土層(10YR2/3) 褐色を少々含む。粘性に欠けるがしまりはある。
- 2層 黑褐色土層(10YR2/3) 硫化物をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
- 3層 褐褐色土層(10YR2/3) 褐色を少々含む。粘性に欠けるがしまりはある。
- 4層 褐褐色土層(10YR2/3) 黑褐色ブロックを多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。
- 5層 黑褐色土層(10YR2/3) 粘性に欠けるがしまりはある。
- 6層 黑褐色土層(10YR2/3) 褐色を多量に含む。粘性に欠けるがしまりはある。

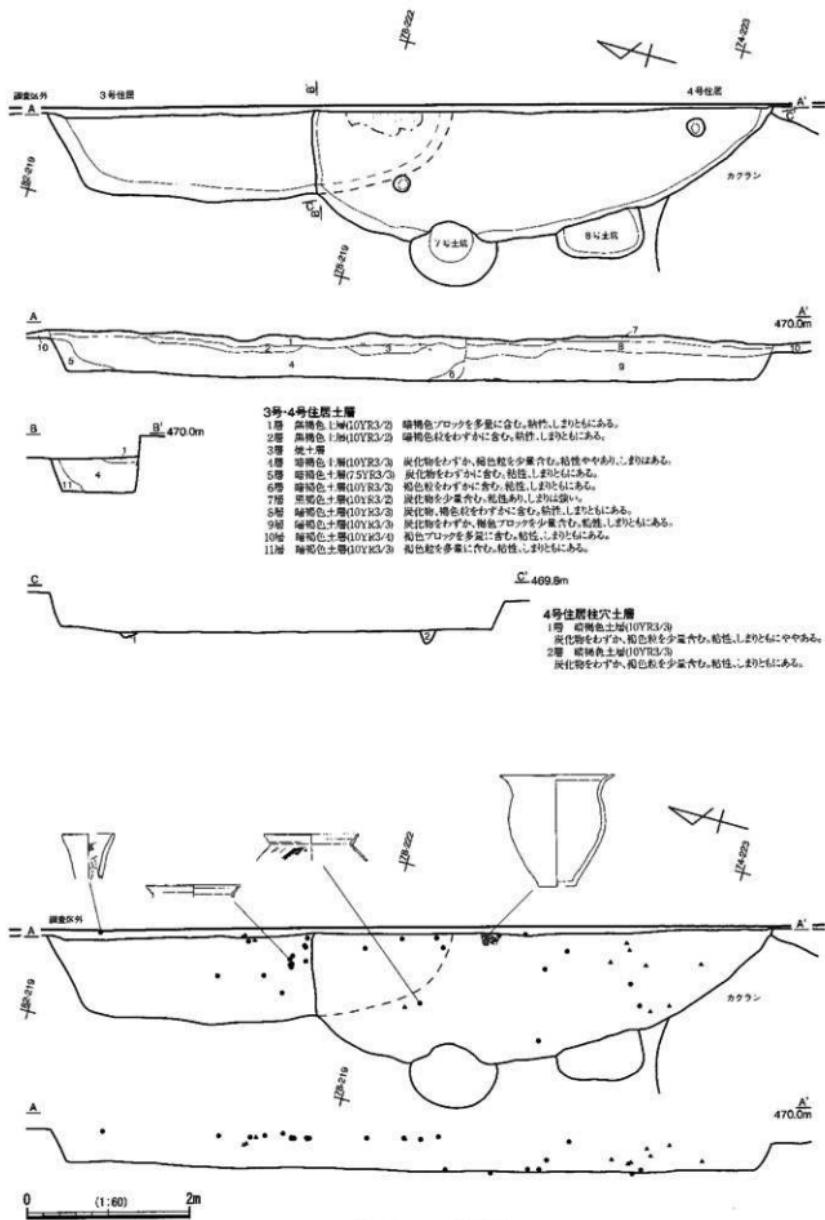
- 7層 褐褐色土層(10YR2/3) 地色ブロックをわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
- 8層 褐褐色土層(10YR2/3) 地色をわずかに含む。粘性に欠けるがしまりはある。
- 9層 褐褐色土層(10YR2/3) 地色に欠けるがしまりはある。
- 10層 褐色土層(10YR4/4) 粘性に欠けるがしまりはある。
- 11層 黑褐色土層(10YR2/3) 黒褐色ブロックを少量含む。粘性に欠けるがしまりはある。



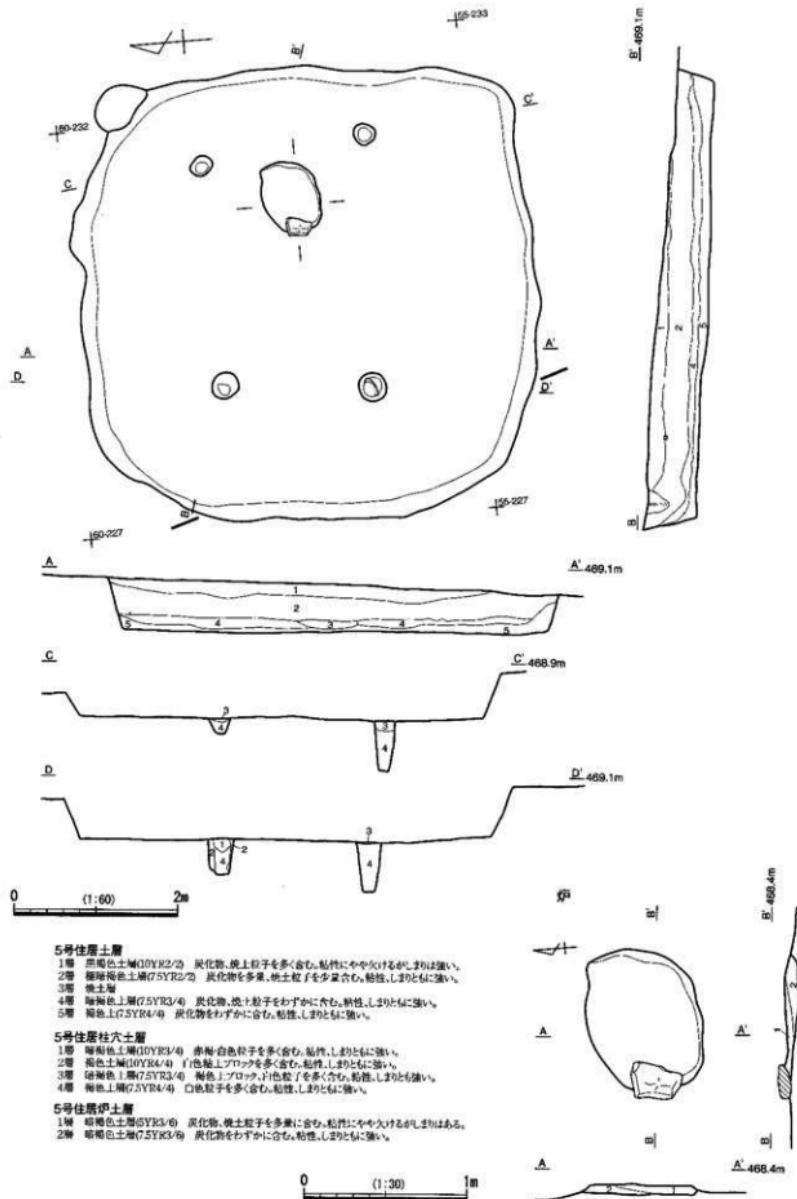
第7図 2号住居(1)



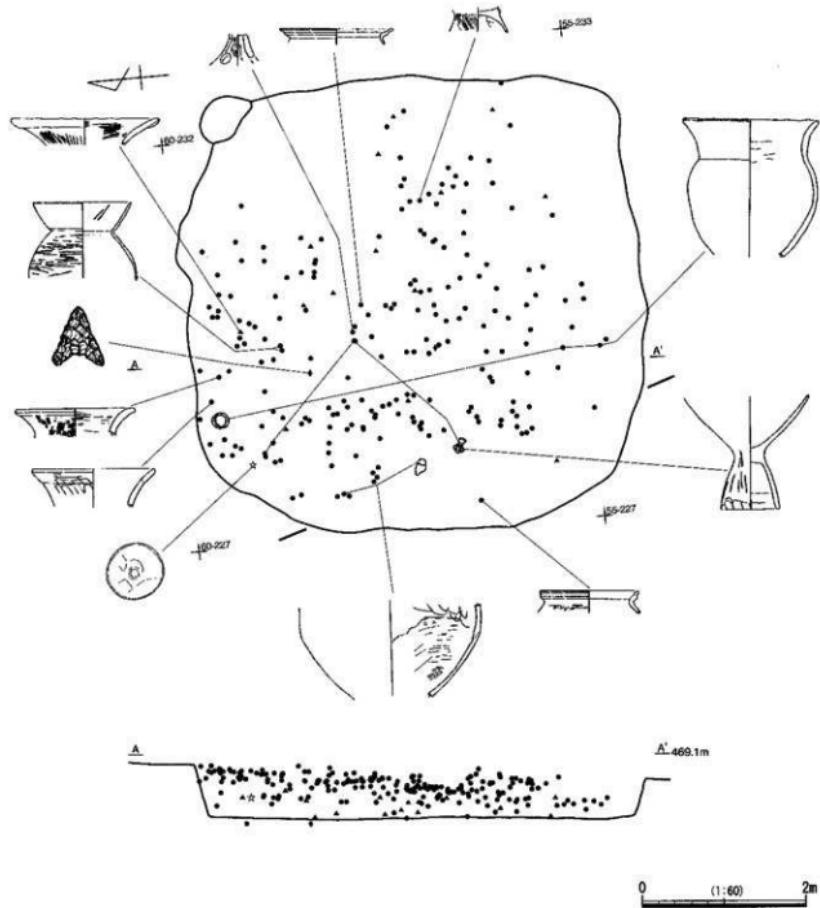
第8図 2号住居(2)



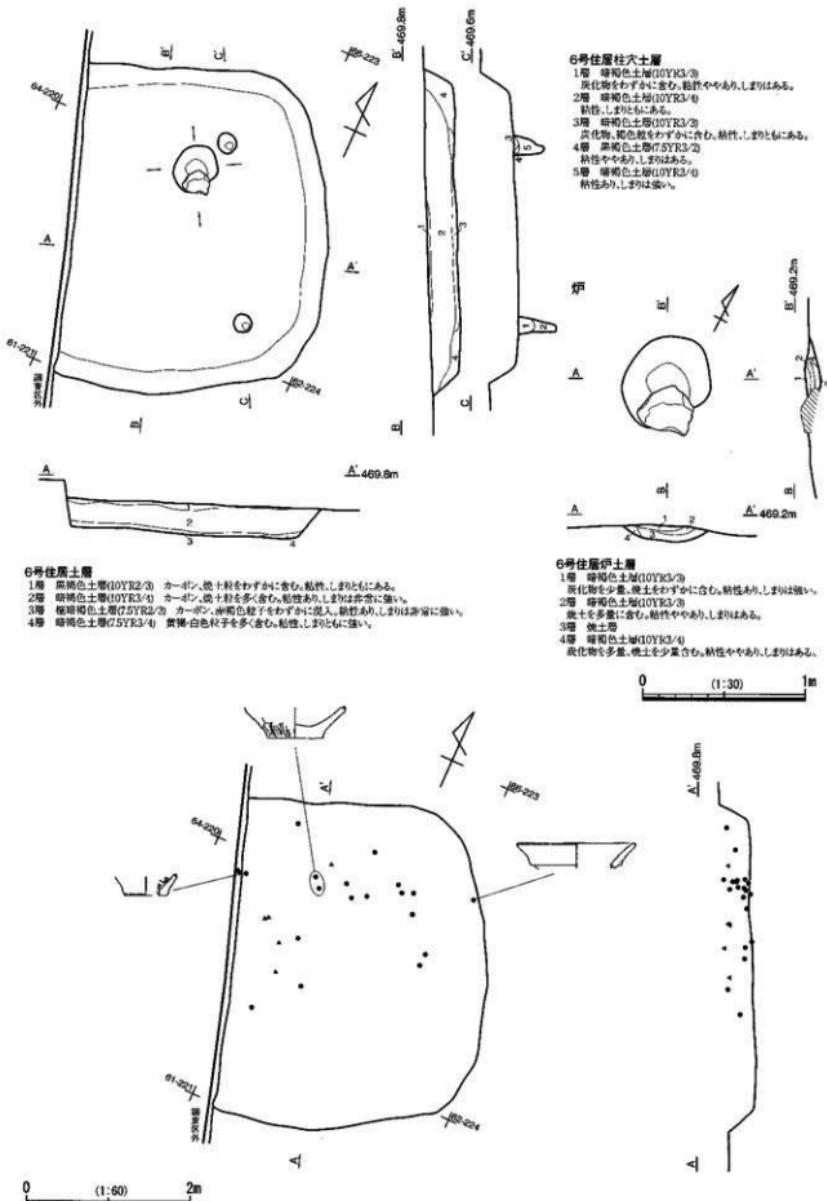
第9図 3・4号住居



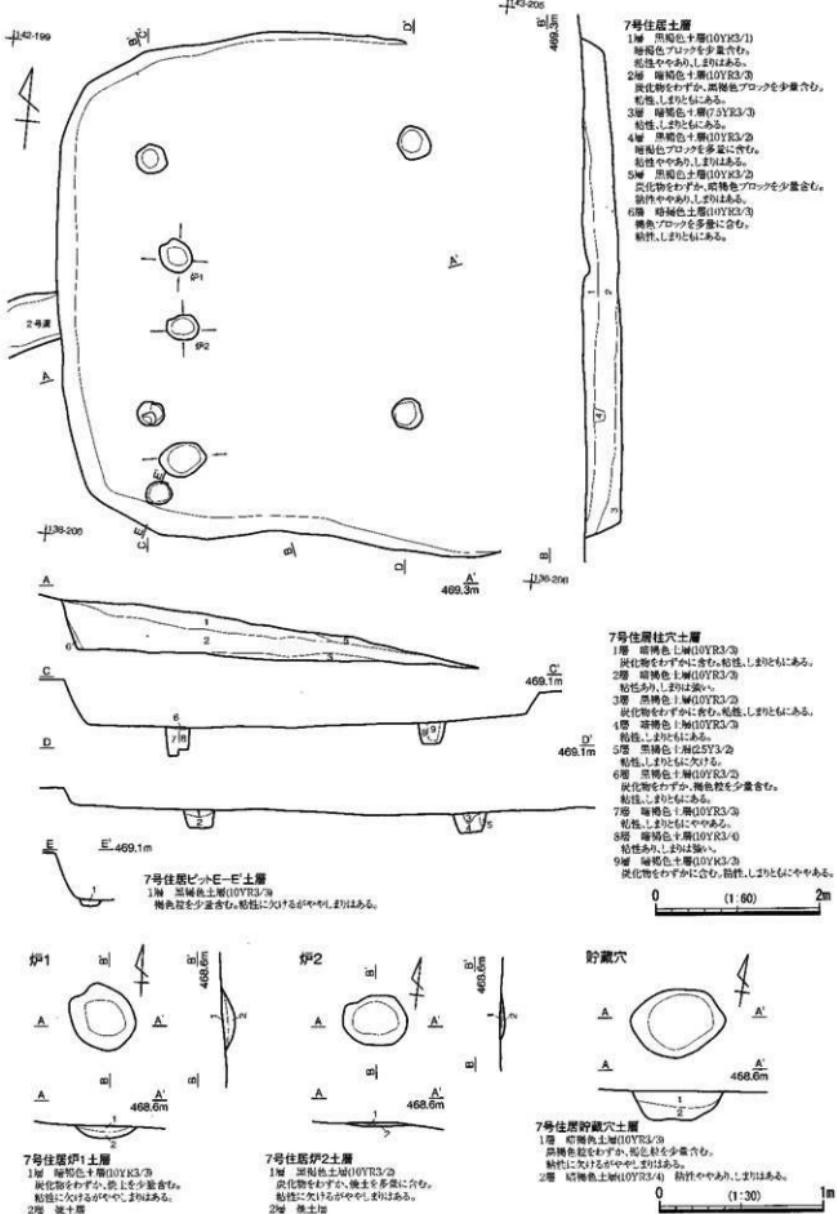
第10図 5号住居(1)

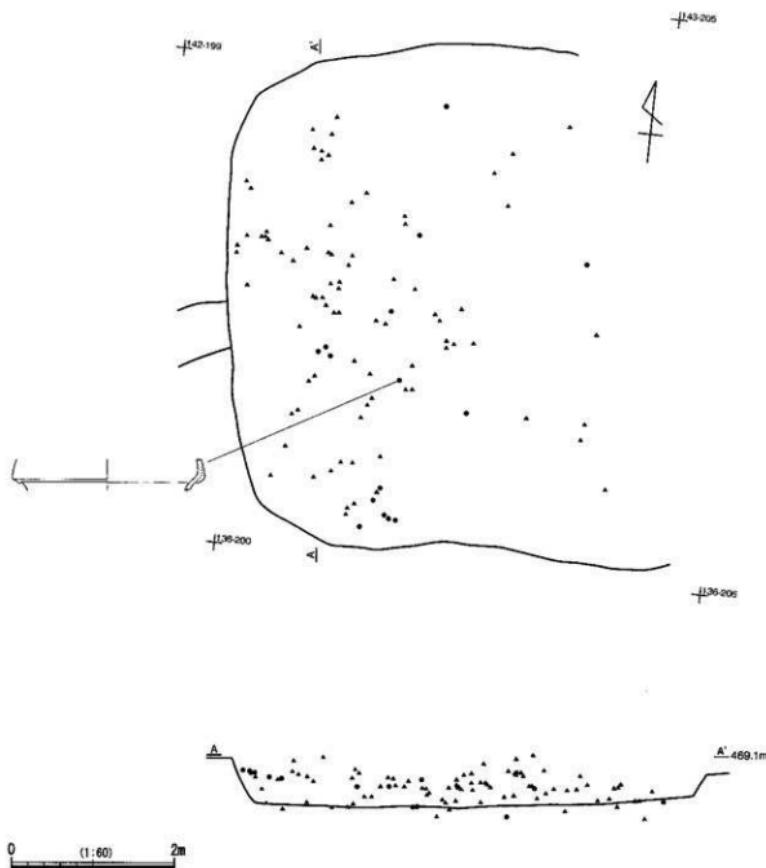


第11図 5号住居(2)



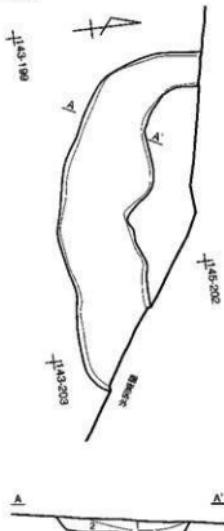
第12図 6号住居





第14図 7号住居(2)

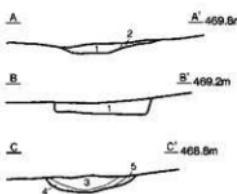
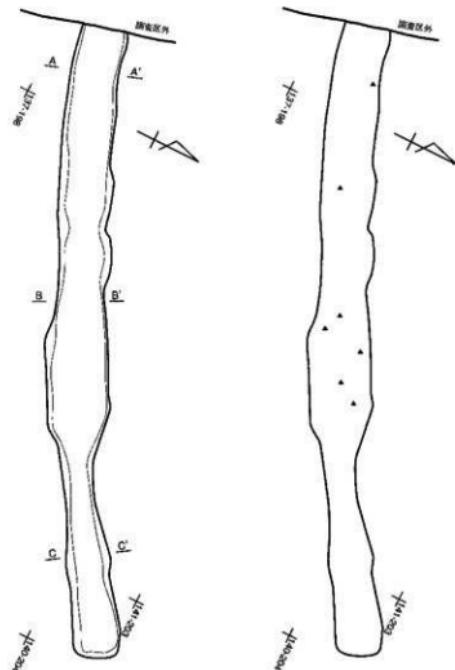
1号溝



1号溝土層

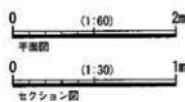
- 1層 稼働色土層(10YR5/3)
炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層 塩サバテ褐色土層(25Y3/3)
粘性に欠けるがややしまりはある。

2号溝



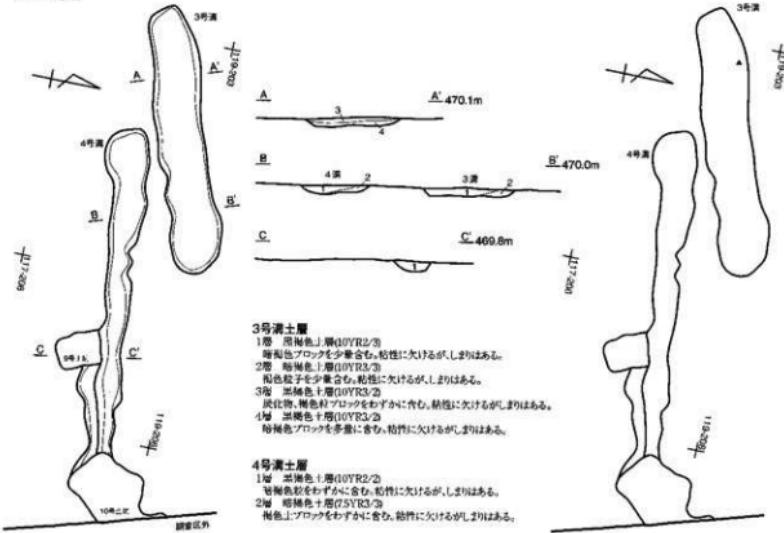
2号溝土層

- 1層 稼働色土層(10YR5/3)
炭化物をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層 黑褐色土層(10Y3/2)
稼働色土層をわずかに含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
3層 黑褐色土層(10YR3/1)
粘性に欠けるがややしまりはある。
4層 黑褐色土層(10YR3/1)
粘性に欠けるがややしまりはある。
5層 黑褐色土層(10YR3/3)
粘性に欠けるがややしまりはある。

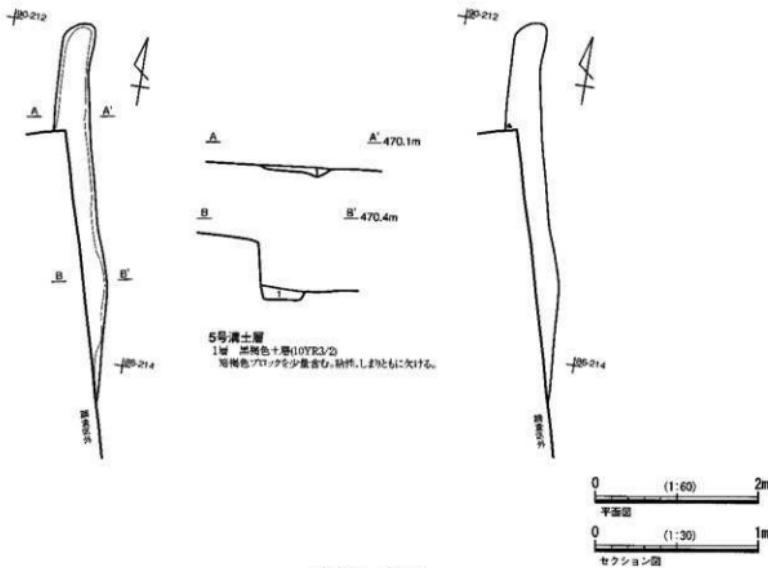


第15図 溝(1)

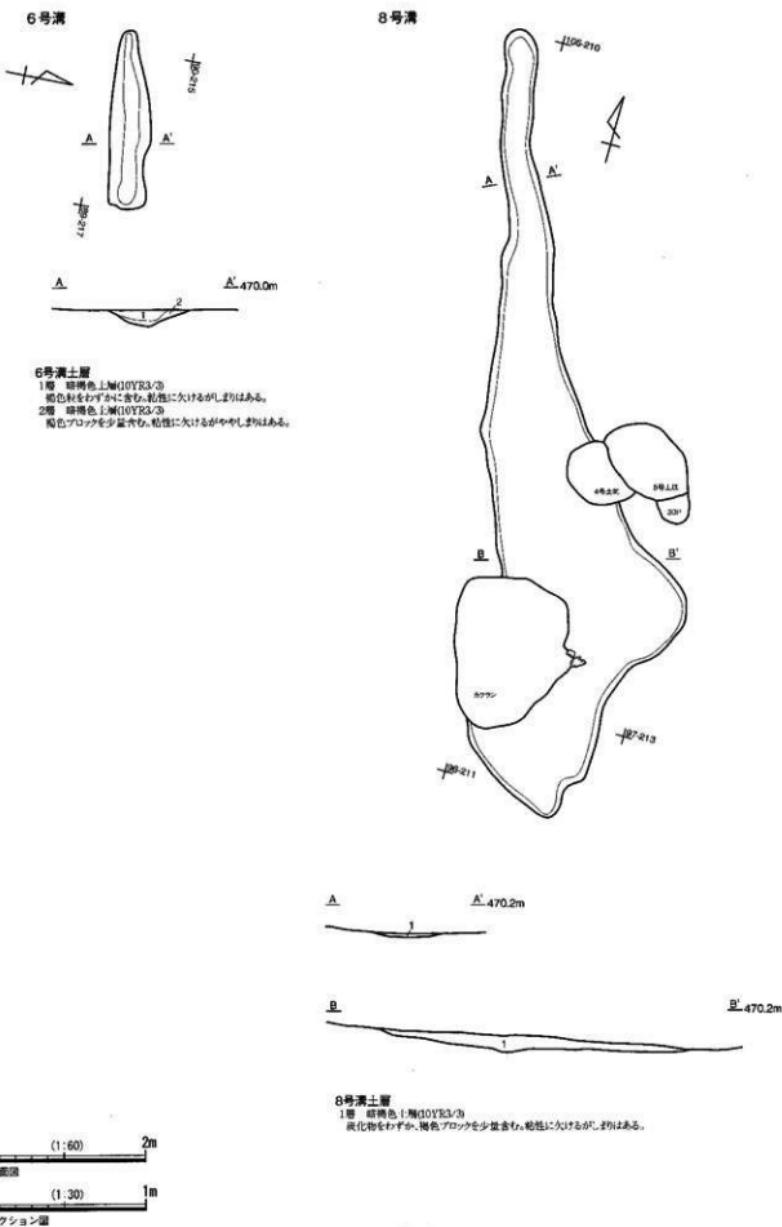
3・4号溝



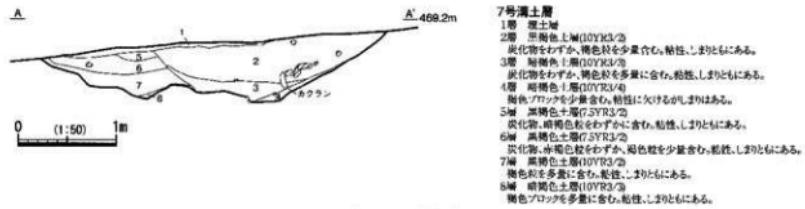
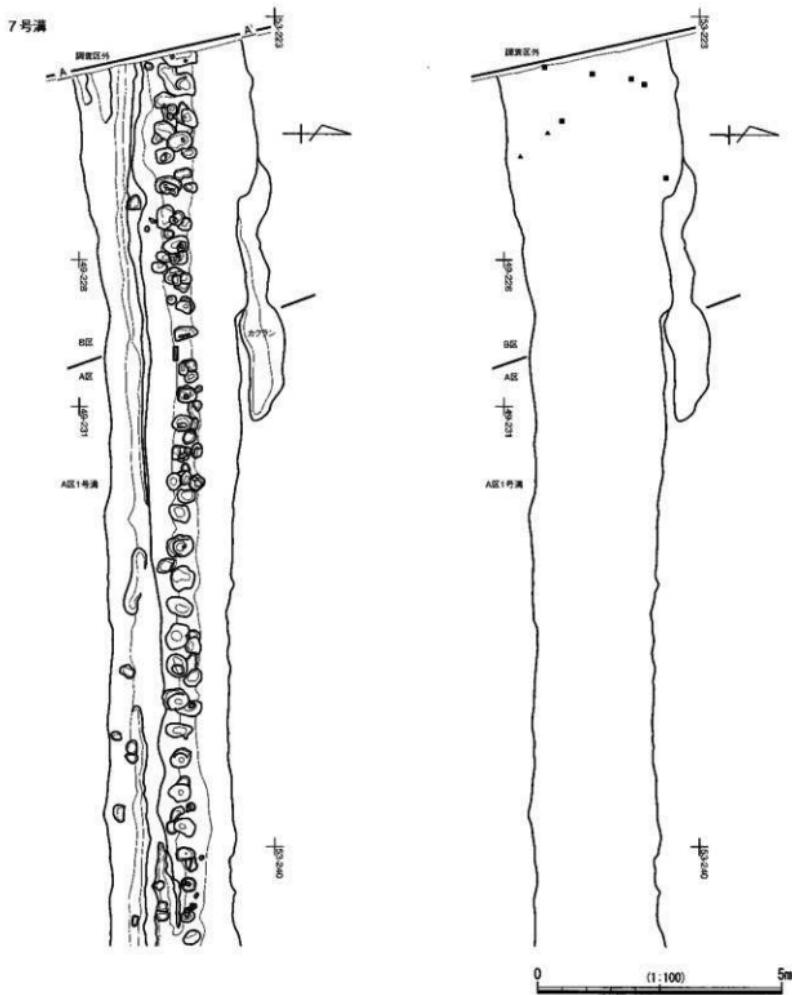
5号溝



第16図 溝(2)

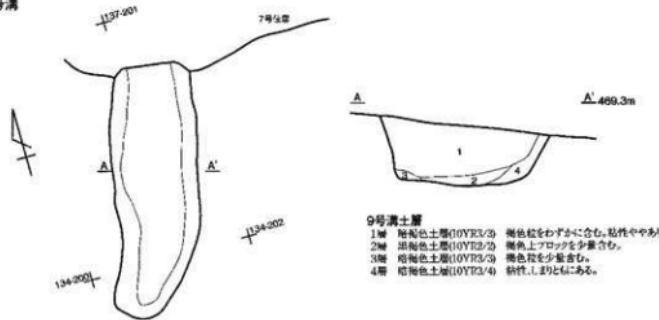


第17図 溝(3)

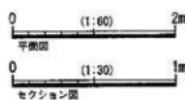
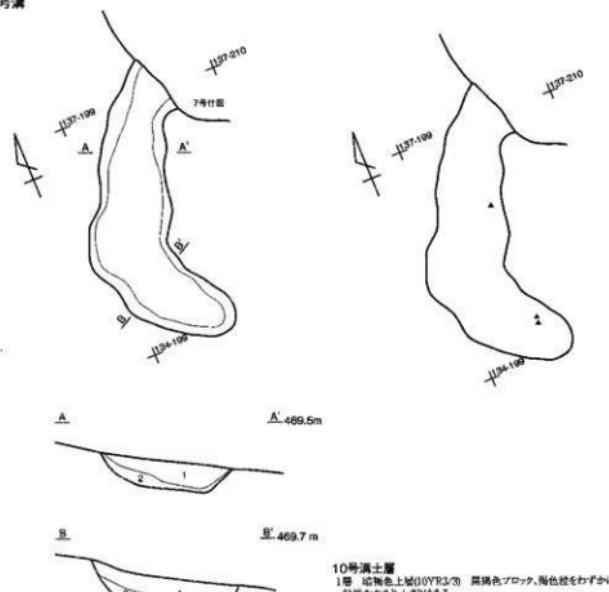


第18図 溝(4)

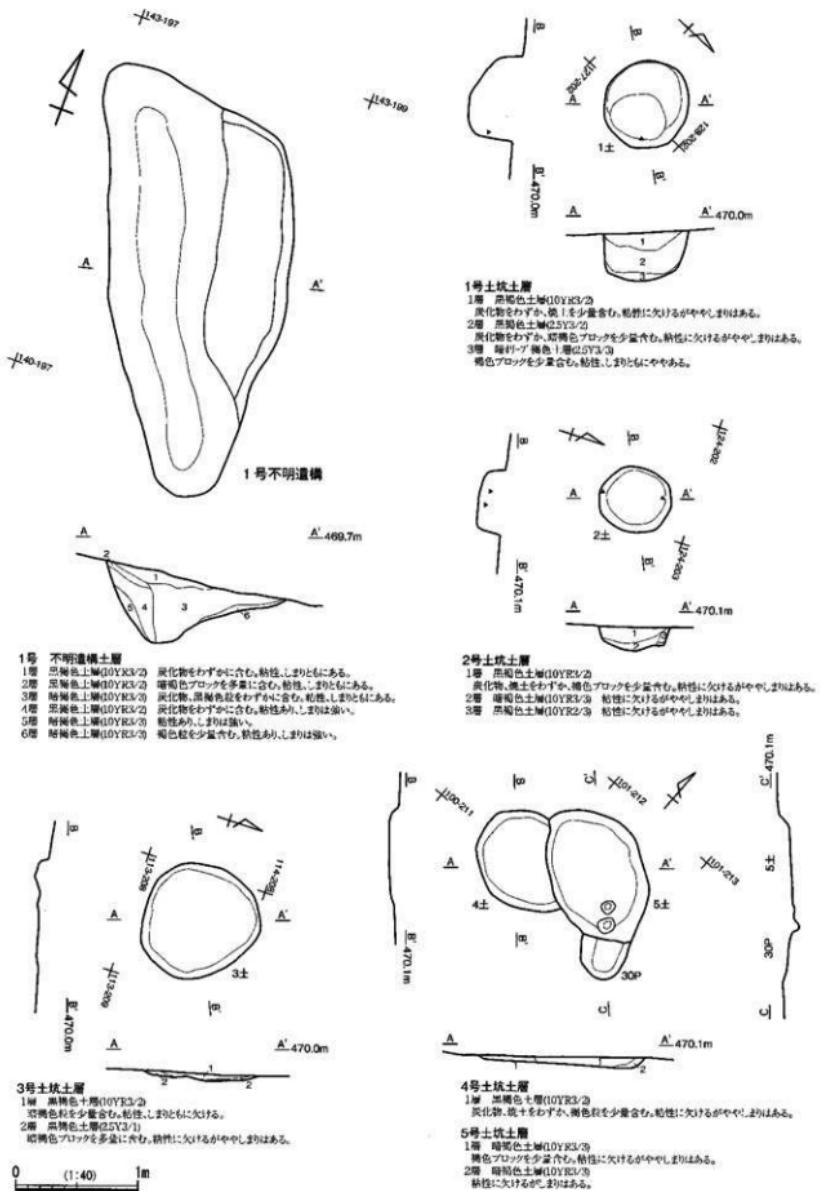
9号溝



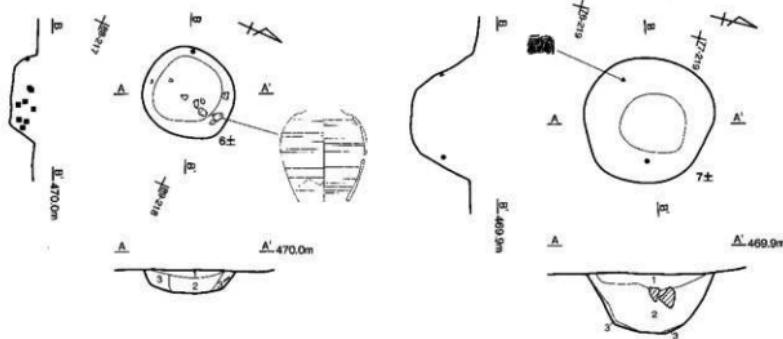
10号溝



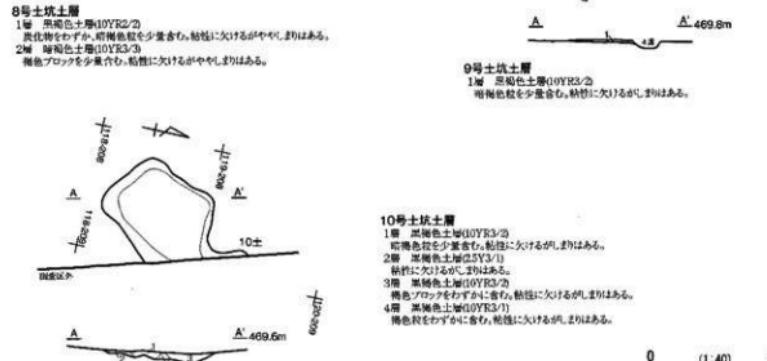
第19図 溝(5)



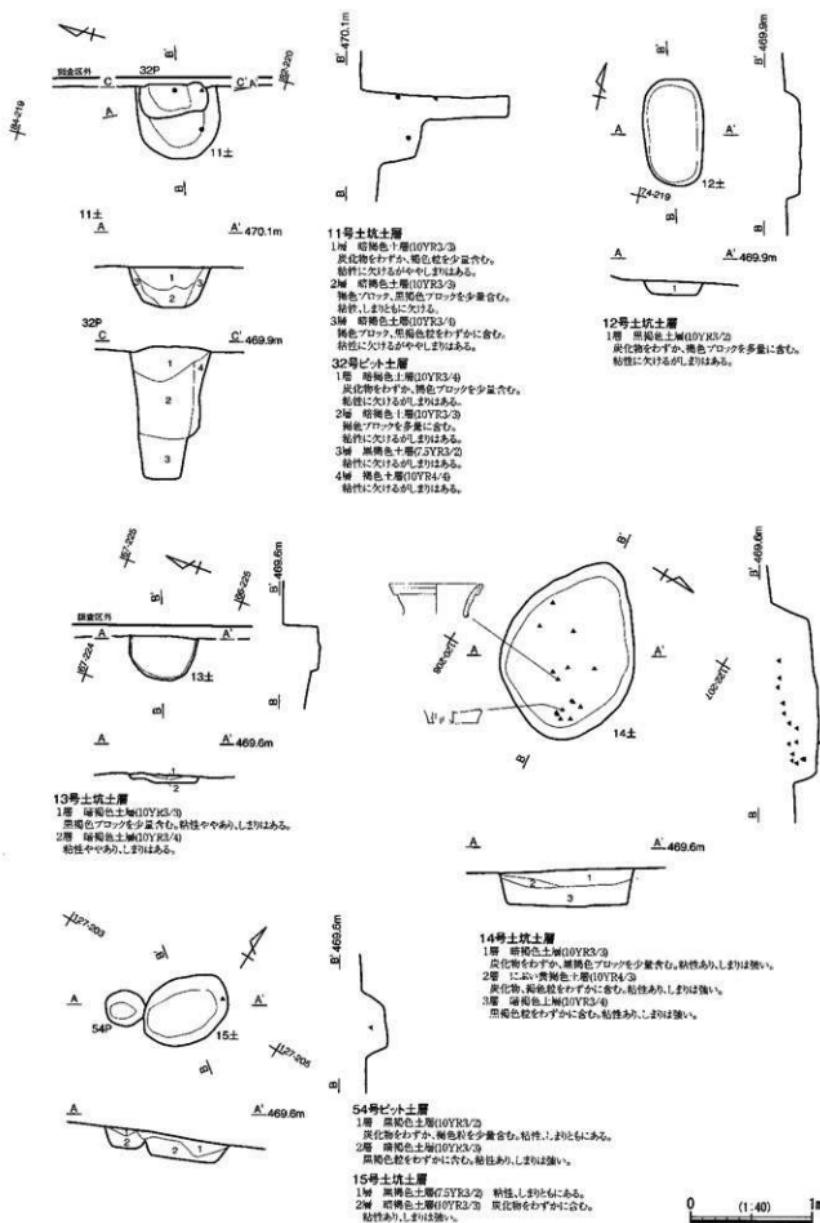
第20図 性格不明遺構・土坑・ピット(1)



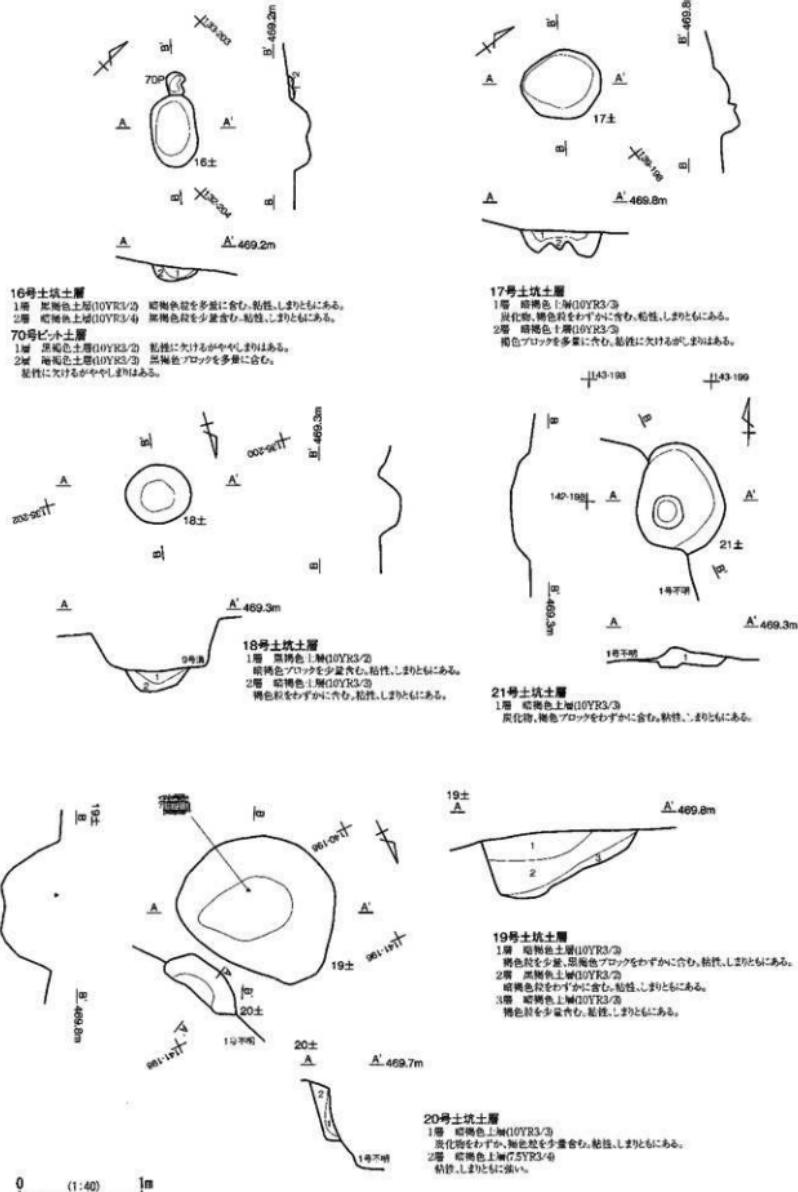
- Pit No. 8 Soil Profile**
- 1層 黄褐色・褐色 I-M(2.5Y3/2)
褐色を少度含む。粘性・稍りとくに欠けるがややしまりはある。
2層 暗褐色土層(DYR3/2)
褐色を少度含む。粘性・稍りとくに欠ける。
3層 岩褐色土層(DYR3/2)
褐色を少度含む。粘性・稍りとくに欠ける。
- Pit No. 9 Soil Profile**
- 1層 黄褐色土層(DYR2/2)
黄褐色を少度含む。粘性に欠けるがややしまりはある。
2層 岩褐色土層(DYR2/2)
褐色を少度含む。粘性に欠けるがややしまりはある。



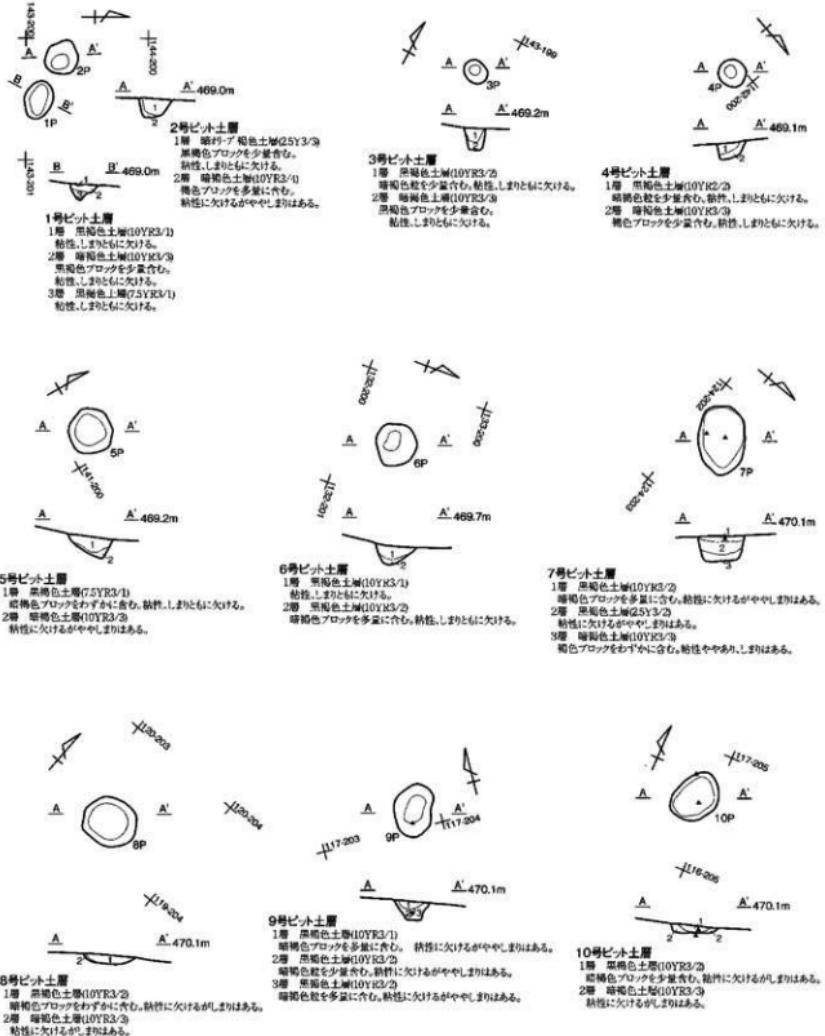
第21図 土坑・ピット(2)



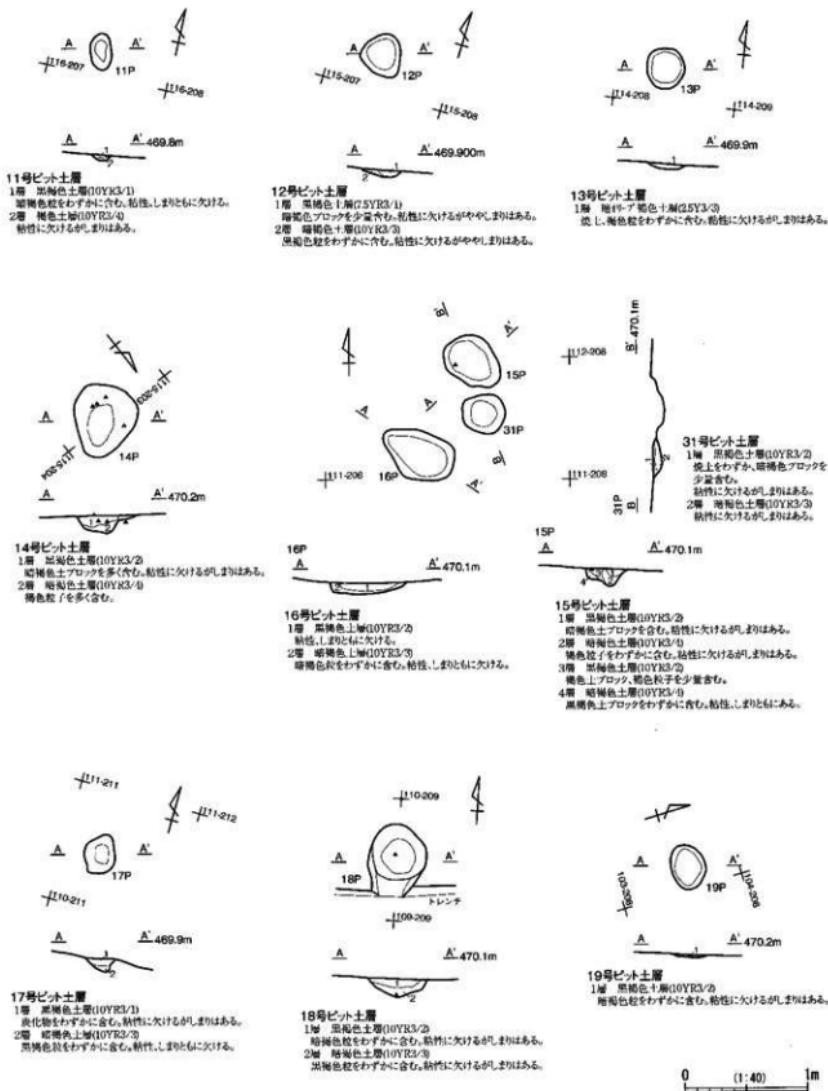
第22図 土坑・ビット(3)



第23図 土坑・ビット(4)

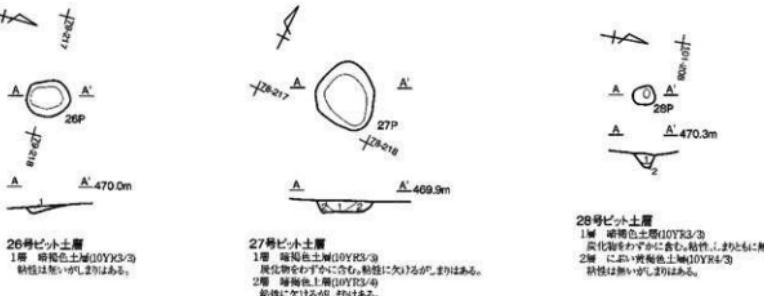
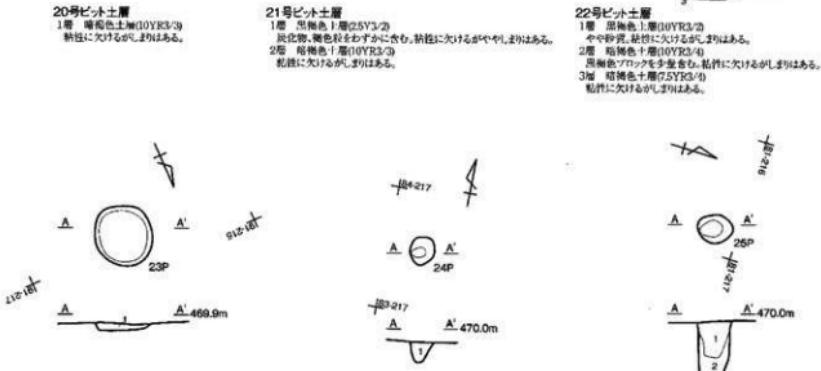
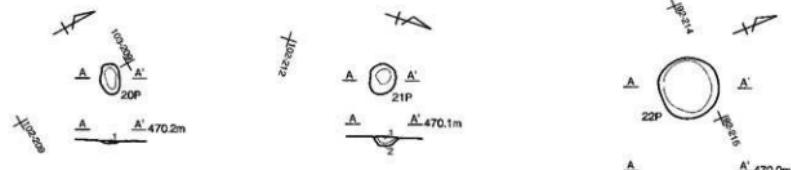


第24図 土坑・ビット(5)



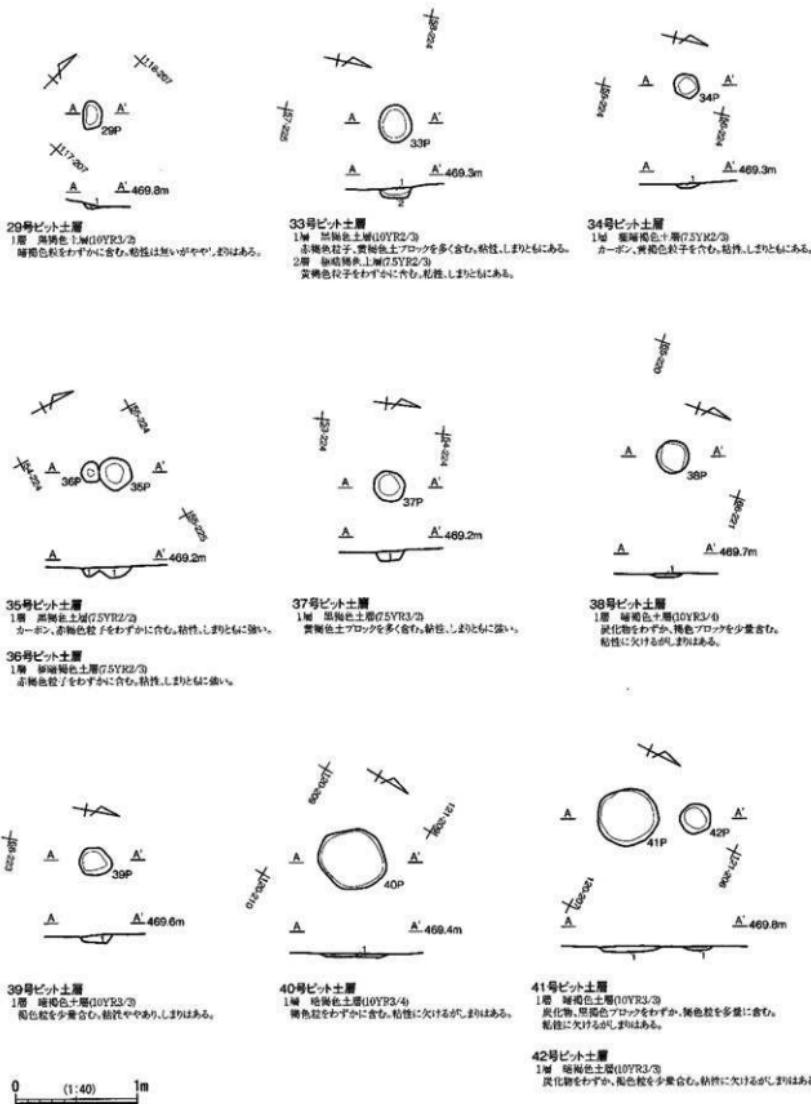
0 (1:40) 1m

第25図 土坑・ビット(6)

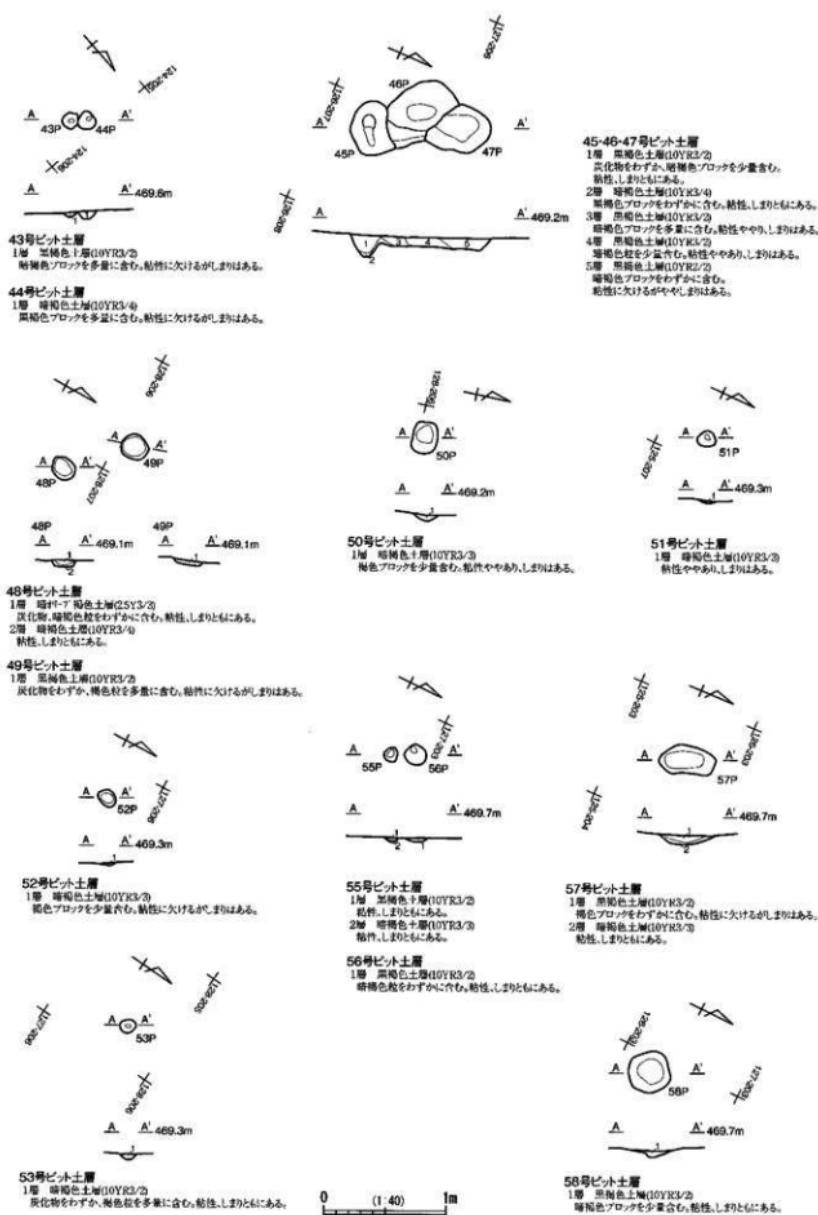


0 (1.40) 1m

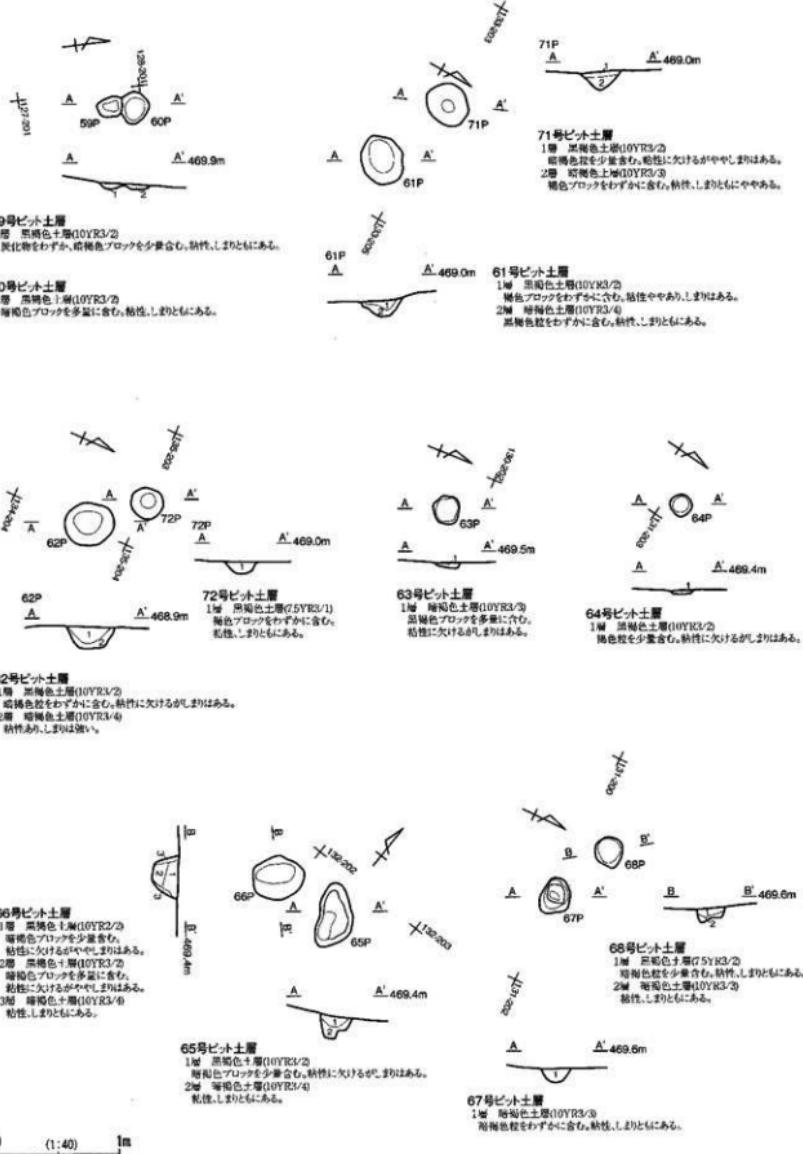
第26図 土坑・ビット(7)



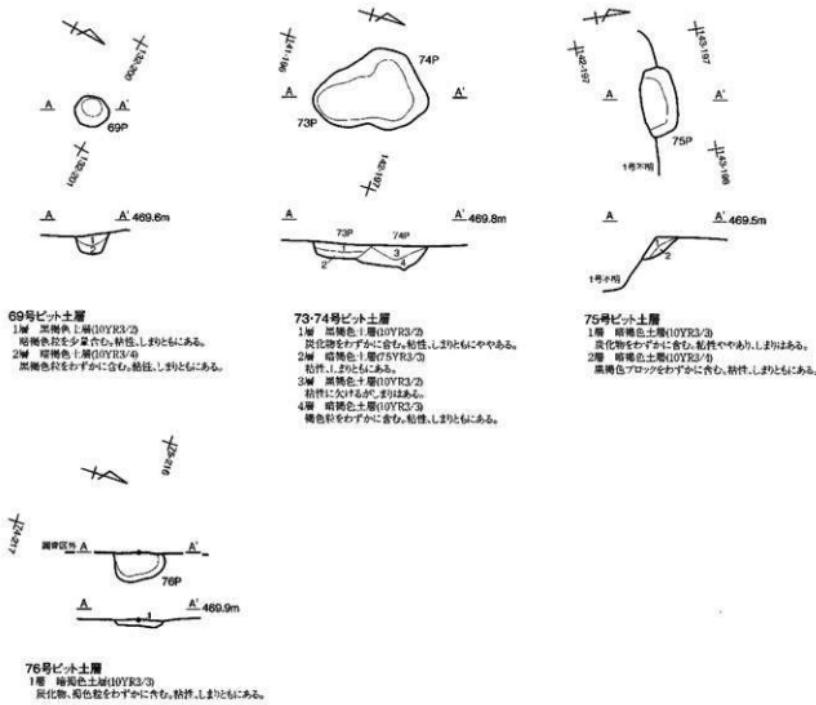
第27図 土坑・ピット(8)



第28図 土坑・ビット(9)



第29図 土坑・ピット(10)

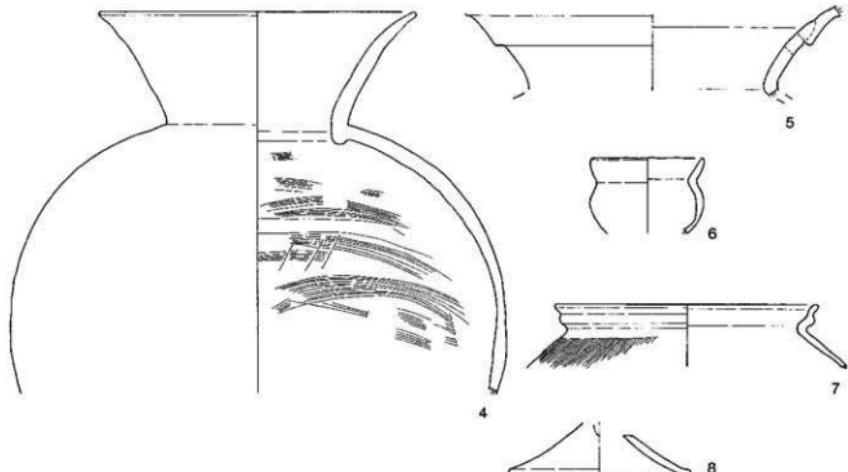


0 (1:40) 1m

第30図 土坑・ビット(11)

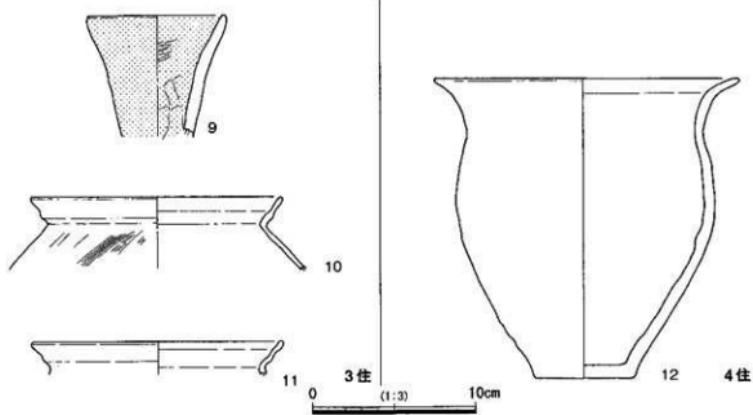


1住



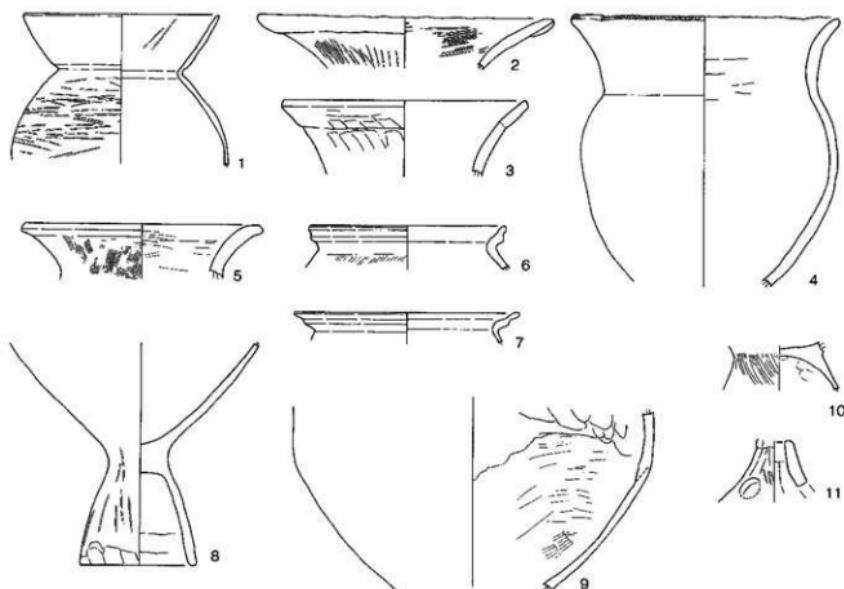
7

2住

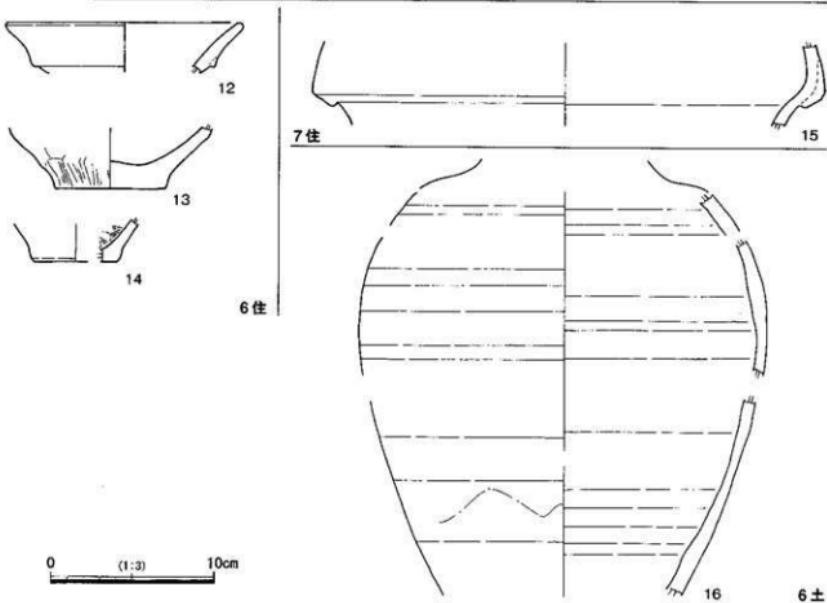


4住

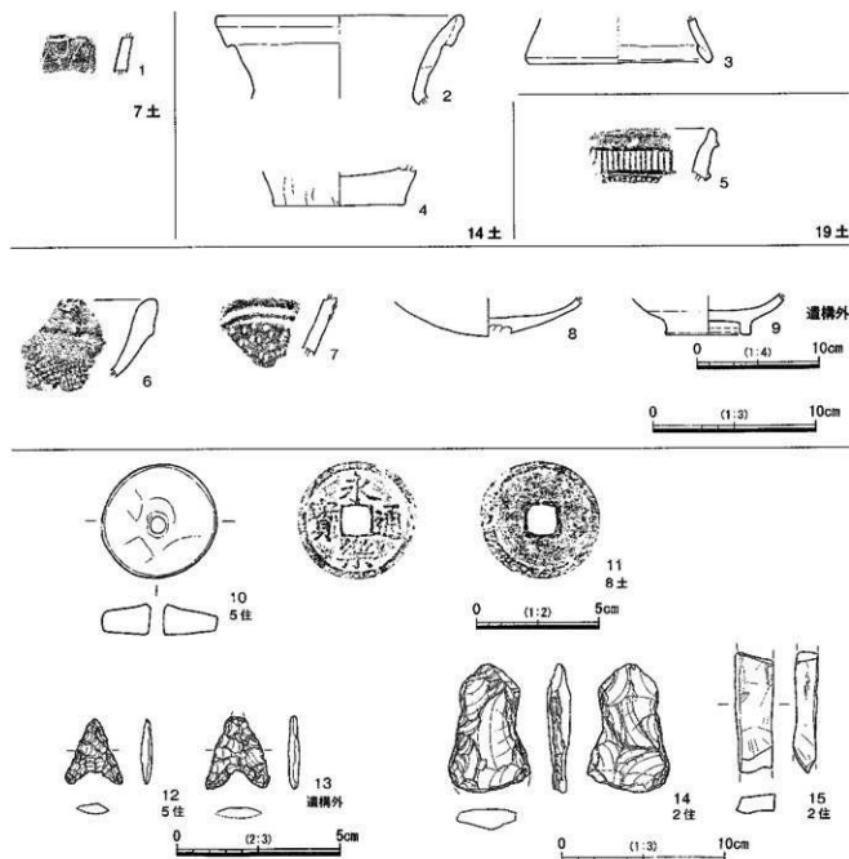
第31図 出土遺物(1)



5住



第32図 出土遺物(2)



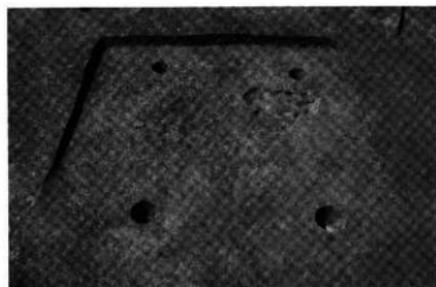
第33図 出土遺物(3)



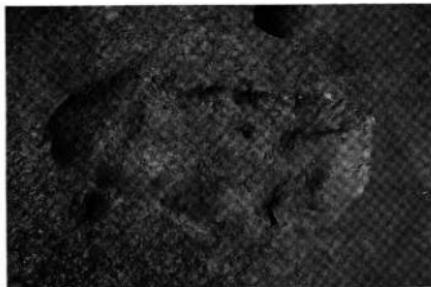
1. 表土剥ぎ(1)



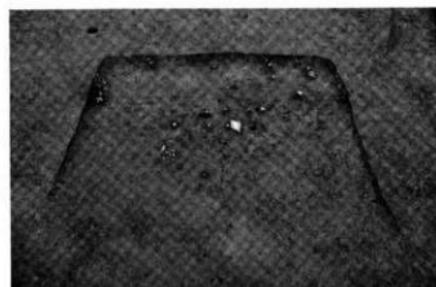
2. 表土剥ぎ(2)



3. 1号住居



4. 1号住居 炉



5. 1号住居 遺物出土状況(1)



6. 1号住居 遺物出土状況(2)

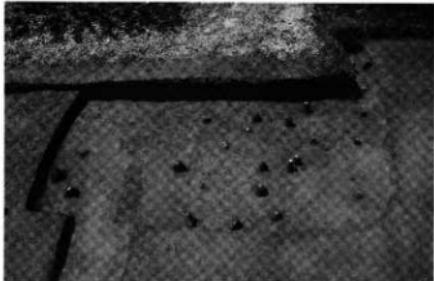


7. 1号住居 遺物出土状況(3)

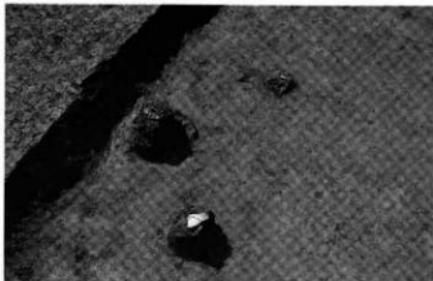


8. 2号住居

図版 2



1. 2号住居 遺物出土状況(1)



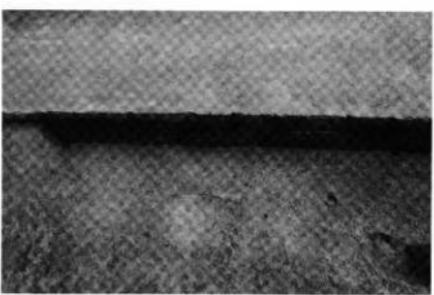
2. 2号住居 遺物出土状況(2)



3. 2号住居 遺物出土状況(3)



4. 2号住居 遺物出土状況(4)



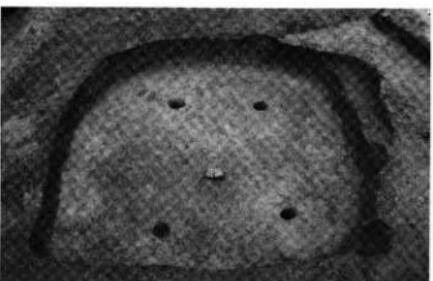
5. 3号住居



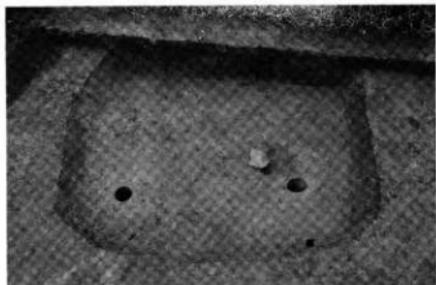
6. 4号住居



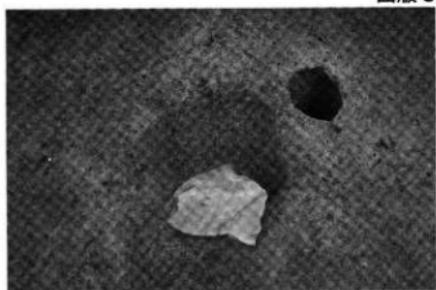
7. 4号住居 遺物出土状況



8. 5号住居



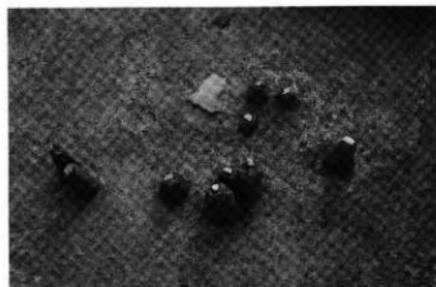
1. 6号住居



2. 6号住居 炉



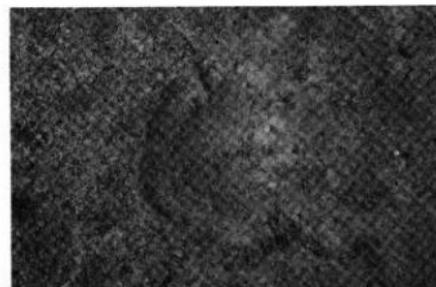
3. 6号住居 遺物出土状況(1)



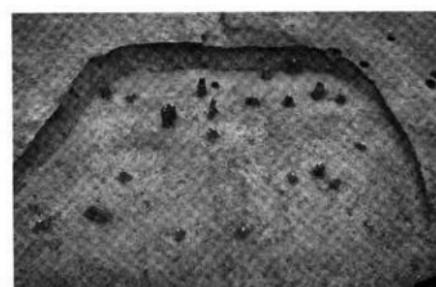
4. 6号住居 遺物出土状況(2)



5. 7号住居



6. 7号住居 炉

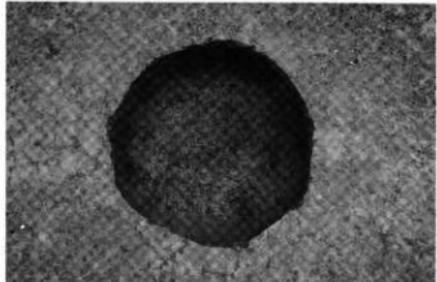


7. 7号住居 遺物出土状況(1)

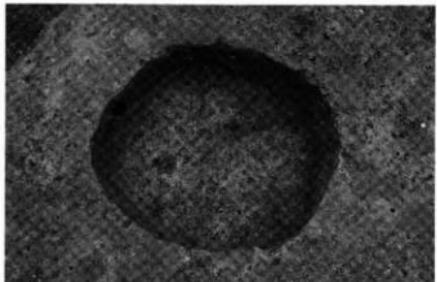


8. 7号住居 遺物出土状況(2)

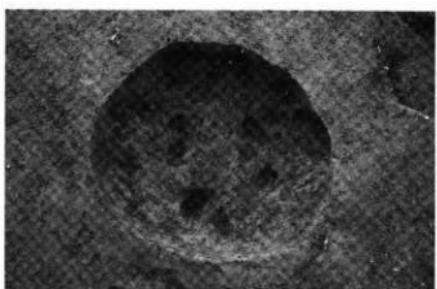
図版 4



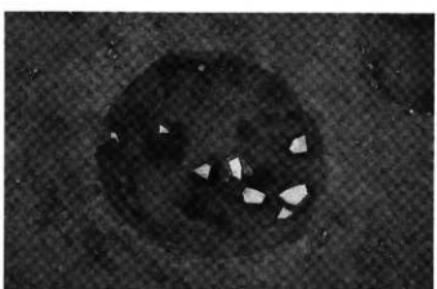
1. 1号土坑



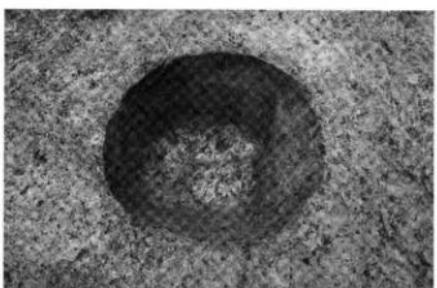
2. 2号土坑



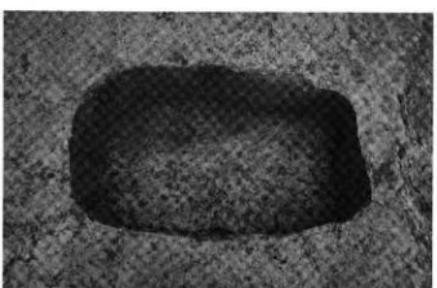
3. 6号土坑



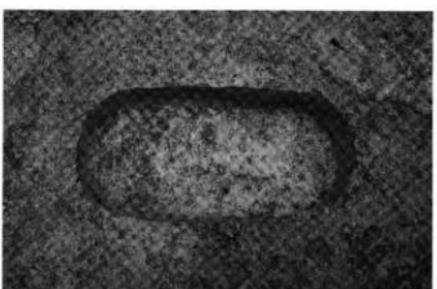
4. 6号土坑 遺物出土状況



5. 7号土坑



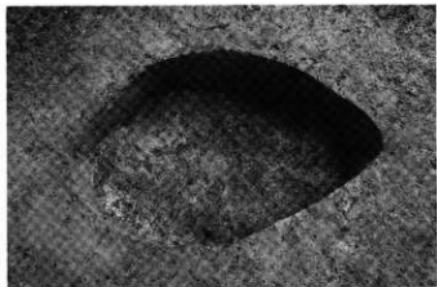
6. 8号土坑



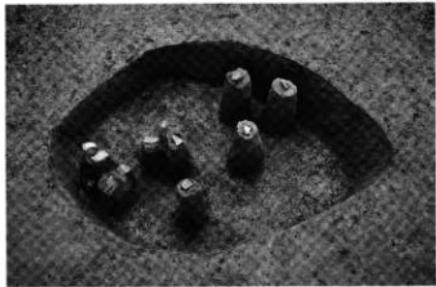
7. 12号土坑



8. 13号土坑



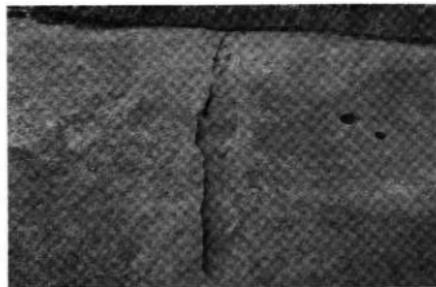
1. 14号土坑



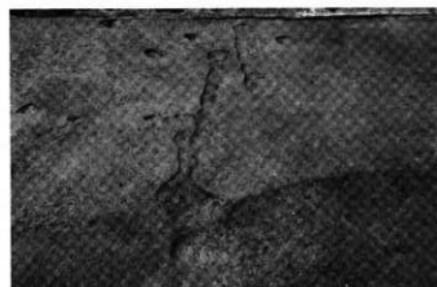
2. 14号土坑 遺物出土状況



3. 1号溝



4. 2号溝



5. 3・4号溝



6. 7号溝



7. 7号溝内ピット



8. 調査風景

図版 6



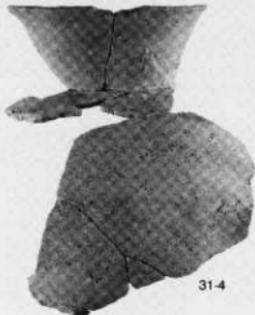
31-1



31-2



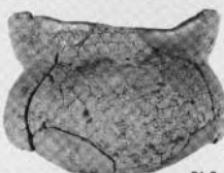
31-3



31-4



31-5



31-6



31-7



31-8



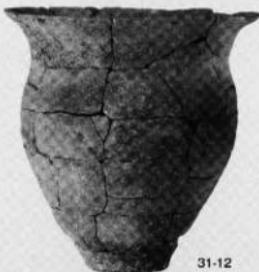
31-9



31-10



31-11



31-12



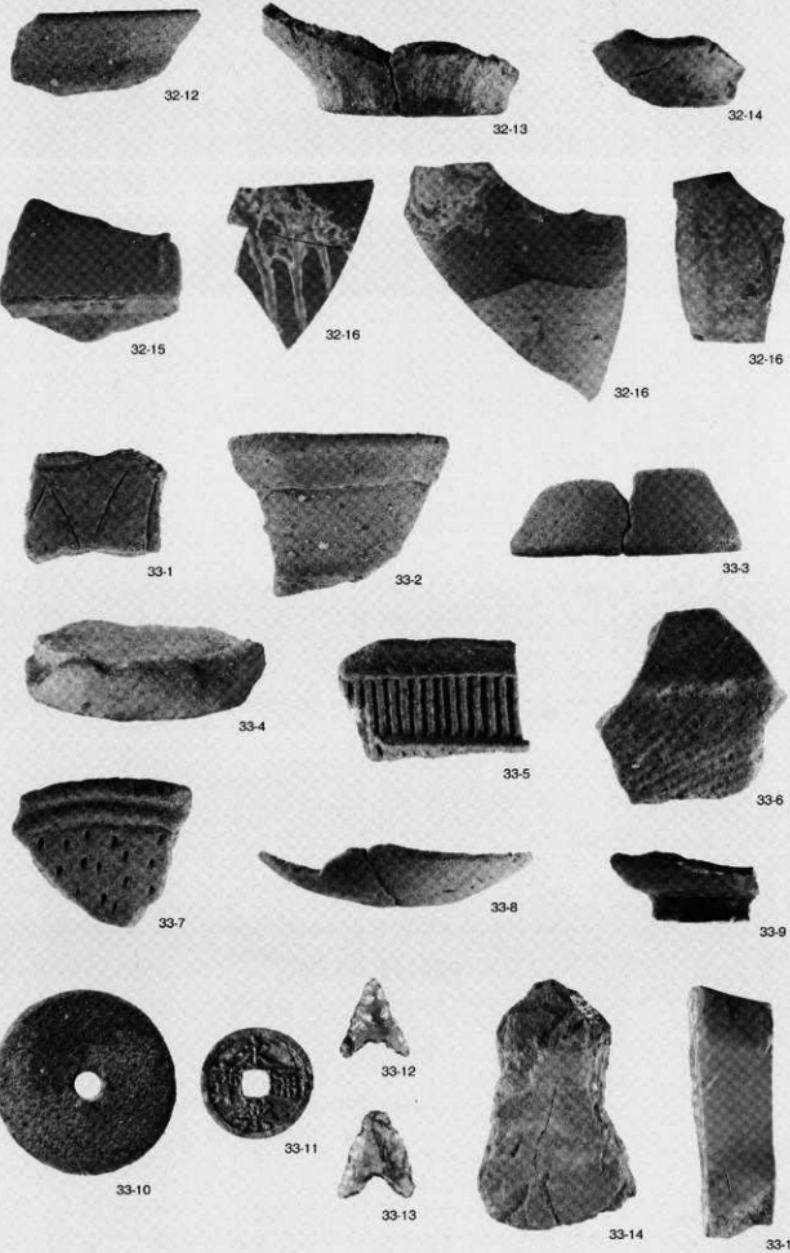
32-1



32-4



32-8



隱岐殿遺跡Ⅲ報告書抄録

ふりがな	おきどのはいせきⅢ
書名	隱岐殿遺跡Ⅲ
副書名	中田町中条地区畠地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
著者名	官澤公雄
発行者	山梨県中北農務事務所・韮崎市教育委員会・財団法人山梨文化財研究所
編集機関	財団法人山梨文化財研究所
住所・電話	〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566 TEL 055-263-6441
印刷日	2011年3月25日
発行日	2011年3月31日
所在地	山梨県韮崎市中田町
地図名	25,000分の1地形図 韮崎
位置	北緯35度44分29秒、東経138度25分48秒
標高	468m
市町村コード	19207
調査原因	畠地帯総合整備事業
調査期間	2009年8月26日～2009年10月13日
調査面積	667m ²
遺 跡 概 要	主な時代 縄文時代～中世
	主な遺構 弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡、中世の土坑・溝跡
	主な遺物 弥生時代後期の土器、古墳時代前期の土師器、中世陶器
	特殊遺構 溝跡

隱岐殿遺跡Ⅲ

—中田町中条地区畠地帯総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成23年3月31日 発行

編集・発行 山梨県中北農務事務所

〒407-0024 山梨県韮崎市本町 4-2-4 TEL 0551-23-3771

韮崎市教育委員会

〒407-8501 山梨県韮崎市水神 131-1 TEL 0551-22-1111

財団法人山梨文化財研究所

〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566 TEL 055-263-6441

